

国際観光地における水産物を含む
日本産食材調達実態・可能性調査
(モルディブ)

2024年3月

日本貿易振興機構 (ジェトロ)

コロンボ事務所

農林水産食品部 市場開拓課

【免責条項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

はじめに

ALPS 処理水の海洋放出を受け、一部の国・地域で日本産水産物に対する輸入規制が強化された。これを受け、ジェトロでは、2023年9月4日に岸田文雄総理大臣が発表した「水産業を守る」政策パッケージの一部として、日本からの水産品等食品の輸出に大きな影響を与えるような急激な事業環境の変化に可及的速やか且つ組織的に対応するため、水産品等食品輸出支援にかかる緊急対策本部（以下、「水産対策本部」という。）を設置し、水産物をはじめとした日本産食品の海外における代替市場の販路開拓への一端を担うこととなった。そのため、中国など特定国による水産物等の輸入停止措置により大きな影響を受けているホタテ等の水産物等の輸出先の多様化を図るため、当該水産物等の日本産品を取り扱う事業者の販路開拓活動に資するための調査の一環として実施することとした。

今回の調査では、世界各地のホテルリゾートやレストランがあり、日本産の水産物・食品にとっては未開拓の潜在市場と見込まれる世界有数の国際観光地を対象とした。日本産水産物を含む食品の新たな需給構造構築に向けた新たな輸出先開拓の支援の一環として、対象国・都市の水産物の市場概況や消費動向、制度情報をふまえ、ホテルリゾートなどの観光産業や外食産業における日本産食材の普及・調達実態、有力販売先や商流・流通経路について取りまとめることで、新規に水産物や食品の輸出市場を開拓しようとする事業者の輸出拡大、また今後官公庁や団体等が支援事業の検討を行う際の一助となることを目的とする。

本調査結果が、今後の同国への水産物をはじめとした日本産食品の輸出拡大の一助となれば幸いである。

日本貿易振興機構（ジェトロ）
コロombo事務所
農林水産食品部 市場開拓課

目次

| | |
|--|-----------|
| 目次..... | ii |
| 1. 国際観光地における水産物を含む日本産食材調達実態..... | 1 |
| 1.1. 対象国の水産物市場の概要 | 1 |
| 1.1.1. 対象国の概要と特徴 | 1 |
| 1.1.2. 水産物を含む食品市場の概況..... | 11 |
| 1.2. 対象観光地におけるホテルリゾート等の概況 | 23 |
| 1.2.1. 大手ホテルリゾート | 23 |
| 1.2.2. モルディブにおける高級レストラン | 39 |
| 1.2.3. モルディブにおけるその他のレストラン..... | 44 |
| 2. 対象観光地への商流・流通経路..... | 45 |
| 2.1. 商流・流通経路 | 45 |
| 2.1.1. 商流の仕組み・流通経路..... | 45 |
| 2.2. 主要輸入業者、ディストリビューターの現状 | 45 |
| 2.3. コールドチェーンの実態..... | 49 |
| 2.3.1. 主要な港湾、空港..... | 49 |
| 2.3.2. 温度管理施設の状況 | 51 |
| 2.3.3. コールドチェーン物流の実態..... | 52 |
| 3. まとめと考察 | 52 |
| 3.1. 日本産水産物・食品の輸出可能性 | 52 |
| 3.2. 輸出拡大のためのポイント | 53 |
| 3.3. 留意点..... | 55 |
| 4. 参考資料：モルディブにおける日本産水産物・食品の輸入規制..... | 55 |
| 4.1. 品目の定義..... | 55 |
| 4.2. 輸入規制 | 60 |
| 4.2.1. 輸入禁止（停止）、制限品目（放射性物質規制等） | 61 |
| 4.2.2..... 施設登録、輸出事業者登録、輸出に必要な書類等（輸出者側でに必要な手続き） | 62 |
| 4.2.3. 動植物検疫の有無..... | 63 |
| 4.2.4. 食品関連の規制 | 63 |
| 4.2.5. 食品規格 | 64 |

| | | |
|-----------|--|-----------|
| 4.2.6. | 残留農薬 | 64 |
| 4.2.7. | 重金属および汚染物質..... | 64 |
| 4.2.8. | 食品添加物..... | 65 |
| 4.2.9. | 食品包装（食品容器の品質または基準） | 65 |
| 4.2.10. | ラベル表示..... | 65 |
| 4.2.11. | その他..... | 69 |
| 4.3. | 輸入許可、輸入ライセンス等、商品登録等（輸入者側で必要な手続き） | 69 |
| 4.3.1. | 輸入通関手続き（通関に必要な書類） | 70 |
| 4.3.2. | 輸入時の検査検疫..... | 71 |
| 4.3.3. | 販売許可手続き | 74 |
| 4.3.4. | その他..... | 74 |
| 4.4. | 関税 | 74 |
| 4.5. | その他の税..... | 79 |
| 5. | 参考資料：付録..... | 79 |
| 5.1. | 水産物の主要輸入業者／ディストリビューターの一覧表 | 79 |
| 5.2. | 水産物の主要小売店一覧表 | 80 |
| 5.3. | ALPS 処理水放出にかかる動向 | 81 |
| 5.3.1. | ALPS 処理水の放出にかかる規制変更の有無／検査強化の動き | 81 |
| 5.3.2. | 報道ぶり | 81 |
| 5.3.3. | 現地輸入者の受け止め方 | 81 |
| 5.3.4. | 現地消費者の受け止め方 | 81 |
| 5.4. | 関連機関 URL | 82 |
| 5.5. | モルディブでホタテを扱っているとされる、リゾートホテル・レストランの例..... | 83 |
| 5.6. | 写真 | 87 |

※本調査レポートの写真はすべてジェトロ撮影

略称表

| 略語 | 英語名 | 日本語訳 |
|------|---|----------------|
| ADB | Asian Development Bank | アジア開発銀行 |
| ALPS | Advanced Liquid Processing System | 多核種除去設備 |
| FAO | Food and Agriculture Orgnizaion | 国際連合食糧農業機関 |
| GDP | Gross Domestic Production | 国内総生産 |
| GST | Good and Service Tax | 財・サービス税 |
| HPA | Health Protection Agency | モルディブ衛生管理局 |
| ISPS | International Ship and Port Facility Security | 国際船舶及び港湾施設保安基準 |
| PSIP | Public Sector Investment Project | 公共セクター投資プロジェクト |
| MCS | Maldives Customs Service | 税関 |
| MED | Ministry of Economic Development | 経済開発省 |
| MFDA | Maldives Food and Drug Authority | モルディブ食品薬品局 |
| MIRA | Maldives Island Revenue Authority | モルディブ内国歳入庁 |
| MMA | Maldives Monetary Authority | モルディブ金融管理局 |
| MOF | Ministry of Finance | 財務省 |
| MOFA | Ministry of Fisheries and Agriculture | 農業漁業省 |
| MPL | Maldives Port limited | モルディブ港湾社 |
| MSC | Marine Stewardship council | 海洋管理協議会 |
| SOE | State Own Enterprise | 国営企業 |
| UAE | United Arab Emirates | アラブ首長国連邦 |
| WB | World Bank | 世界銀行 |
| WTO | World Trade Organization | 世界貿易機関 |

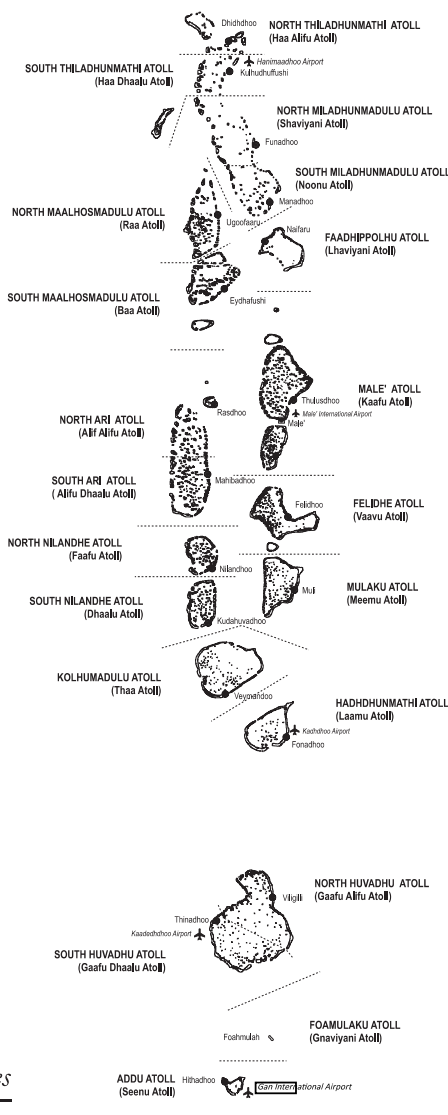
図表番号

| | |
|--|----|
| 図 1 セクターごとの GDP 成長率 | 3 |
| 図 2 各産業の GDP に占める割合 | 6 |
| 図 3 訪問者数と成長率 | 8 |
| 図 4 輸入額の 카테고리別割合 | 12 |
| 図 5 食品輸入額の推移 (2016 年-2021 年) | 13 |
| 図 6 滞在先の食事のプラン | 17 |
| 図 7 日本食材の商流 | 45 |
| 図 8 国際食品照射記号 | 67 |
| | |
| 表 1 主要輸出入品目 | 5 |
| 表 2 主要輸入相手国上位 10 カ国 表 3 主要輸出相手国上位 10 カ国 | 5 |
| 表 4 2023 年の観光客上位 10 カ国 | 8 |
| 表 5 タイプ別宿泊施設数 | 10 |
| 表 6 モルディブの宿泊施設の価格帯 | 10 |
| 表 7 輸入品目の上位 5 品目 | 12 |
| 表 8 ホタテの輸入量推移 | 13 |
| 表 9 マグロの輸入量推移 | 14 |
| 表 10 海藻の輸入量推移 | 14 |
| 表 11 カキの輸入量の推移 | 14 |
| 表 12 ナマコの輸入量の推移 | 15 |
| 表 13 クラゲの輸入量の推移 | 15 |

地図

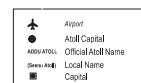


(出所：外務省ウェブサイト)



Map of Maldives

Approx. Scale= 1:3,300,000



出所：Statistical Yearbook of Maldives, 2011, Department of National Planning

1. 国際観光地における水産物を含む日本産食材調達実態

1.1. 対象国の水産物市場の概要

1.1.1. 対象国の概要と特徴

1.1.1.1. 対象国の概要

| | |
|------|---|
| 面積 | 298 平方キロメートル（全島総計。東京 23 区の約半分）。1,192 の島々より成る。 |
| 人口 | 51.5 万人（2021 年モルディブ政府資料） （内訳は、モルディブ人 38.3 万人、外国人 13.2 万人。いずれもモルディブ在住の人口） |
| 首都 | マレ |
| 民族 | モルディブ人 |
| 言語 | ディベヒ語 |
| 宗教 | イスラム教 |
| 政体 | 共和制 |
| 国家元首 | モハメド・ムイズ（Mohamed Muizzu）大統領 |
| 通貨 | ルフィア |

（出所：外務省ウェブサイト）

1.1.1.2. 特徴

モルディブは約 1,200 の島々から成り（うち有人島は約 200）、高温多湿の熱帯気候である。首都であるマレは人口密度が世界でもトップクラスといわれており、その密度は年々上昇している。また一つ一つの島も小さく、ほかの都市のように一つの都市に機能を集中することができないため、島ごとに機能が特定されていることが多く、観光の島・空港の島・発電施設の島など島ごとにある役割に特化している場合が多いのも特徴的である。特にリゾート島は「一島一リゾート」のコンセプトのもと、その地形学的な利点を生かし開発され、モルディブの観光業の発展に多大な貢献をしてきた。

公用語はディベヒ語であるが、首都マレではスリランカ・インド・バングラデシュ・ネパールから働きに来ている人々も多く、ビジネスの場面では英語が主に使用されている。また、リゾート島では国・地域を問わず世界中から集まった、多国籍のスタッフが勤務している。コメや小麦の主食を含め、ほとんどの日用品を輸入せざるを得ないことから、輸入手続きなども複雑ではなく、比較的スムーズである。マレ市内のスーパーでも世界中から輸入されたものが販売されている。

2023 年 10 月の大統領選ではモハメド・ムイズ氏が勝利し、外交路線が中国寄りになる可能性があると言われている。観光や漁業以外の経済の多様化、財政改革、雇用機会の増加、汚職や縁故主義、深刻化する麻薬問題などが、政府が直面する当面の課題である。さらに、国土の

80%が海拔1メートル以下であるため、地球温暖化による海面上昇が国土に与える影響も大きな懸念となっている。

1.1.1.3. 基礎的経済指標

| | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|------------------------------|----------|----------|-----------|
| 実質 GDP 成長率 (%) ¹ | 37.7% | 13.9% | 8.7% |
| 名目 GDP 総額 (MVR) ² | 80,773.8 | 94,945.3 | 106,377.8 |
| 一人当たり GDP (ドル) ³ | 9,283.7 | 11,374.6 | 11,068.9 |
| 消費者物価上昇率 (%) ⁴ | 0.5% | 2.3% | 2.9% |
| 輸出額 (億ドル) ⁵ | 2.9 | 4.0 | 4.2 |
| 輸入額 (億ドル) ⁶ | 25.7 | 35.2 | 34.9 |
| 経常収支 (億ドル) ⁷ | △4.6 | △10.0 | △15.4 |
| 金融収支 (億ドル) ⁸ | △6.0 | 8.4 | △13.6 |
| 外貨準備高 (億ドル) ⁹ | 8.06 | 8.32 | 5.89 |
| 債務残高 (対 GDP%) ¹⁰ | 117.1% | 114.3% | 116.8% |
| 対ドル為替レート ¹¹ | 15.39 | 15.4 | 15.4 |
| 失業率 (%) ¹² | 5.26 | 4.89 | N/A |

¹モルディブ財務省「Macroeconomic Update May 2023」モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/72>

²モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/38>

³モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/75>

⁴モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/566>

⁵モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/3465>

⁶モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/3457>

⁷モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/3400>

⁸モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/3419>

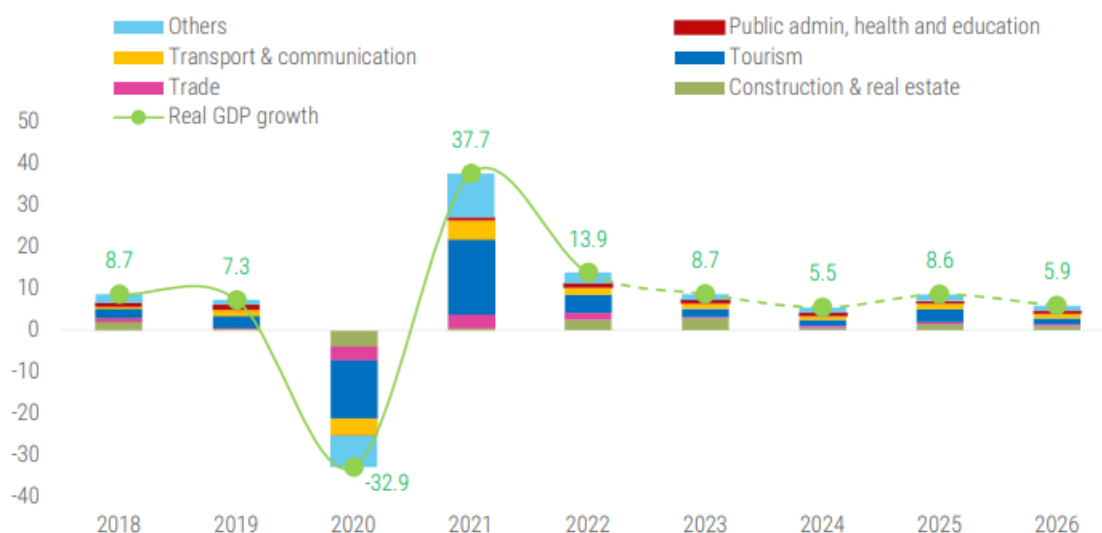
⁹モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/3382>

¹⁰モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/4522>

¹¹モルディブ金融管理局「Viya - Maldives Statistics」<https://viya.mma.gov.mv/series/4039>

¹²外務省ウェブサイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/maldives/data.html>

モルディブの実質 GDP は力強い成長を遂げ、当初 2022 年の成長率を 12.3% と予想していたが、四半期国民会計の年率換算値では 13.9% となった。中期的な実質 GDP 成長率は平均 6.8% と予測され、観光、運輸、建設、漁業などの主要部門が牽引すると予想される。成長の要因としては観光客の増加、インフラ整備、水産業の生産性向上などが挙げられる。1 人当たりの GDP は 1 万ドルを超え、高位中所得国のカテゴリーに属しており、南アジアで 1 番高くなっている。



Source: Maldives Monetary Authority, Ministry of Finance, Maldives Bureau of Statistics

図1 セクターごとの GDP 成長率¹³

(出所：モルディブ財務省)

【財政状況】

2022 年の財貿易赤字は前年比 38.4% 増の 29 億ドルに拡大したが⁵、これは石油の輸入額が大きい（GDP の 13.5% 超に達する）ことに加え、公共セクター投資プロジェクト（PSIP）の加速により建設・資本財の輸入が増加したためである。石油輸入は前年比 83% 増と急増し、輸入全体の伸びの半分を占め、輸送機器と建設資材の輸入も 2022 年には前年比 48% 増と急増した。2023 年 7 月時点の貿易赤字は年率換算で 7.4%（前年同期比）増の 30.7 億ドルであった。2023 年第 2 四半期以降、石油の輸入は 9%（前年同期比）減少したが、全体の輸入額は高止まりしており、2023 年前半は輸送機器と建設資材の輸入が高水準で推移した。観光産業が堅調に伸びているにもかかわらず、高水準の貿易赤字が引き続き国際収支を圧迫している。

¹³ モルディブ財務省「Macroeconomic Update October 2023」

<https://www.finance.gov.mv/public/attachments/yALDJDIvMNnOyDuTVEwmYlJ0gVySc86A8JwRExeK.pdf>

モルディブは輸入に依存する割合が高いため、2022年のロシアのウクライナ侵攻に伴う世界的な燃料・商品価格の高騰の影響を強く受けた。これを受け、政府が補助金をつけたため、政府支出が膨らんだ。2022年の政府歳入全体は予算見込みどおりであったが、モルディブ政府の補助金予算と開発プロジェクト投資予算は、6月末までに予算額に達した。補助金によりインフレが和らげられたとはいえ、2022年末の総合インフレ率は2021年末の0.5%から1.8ポイント上昇した2.3%に上昇した。一方、外貨準備高は3月から10月までの間に40%以上減少し、8億6,500万ドルから4億9,900万ドルになった。年末までに外貨準備高は8億2,700万ドルに回復し、使用可能な外貨準備高は2億6,700万ドルになった⁴。

2023年4月の輸出総額は2022年4月と比較して29%の大幅増となったが、輸入総額は同期間に5%減少した。輸出総額の年間増加は、主にジェット燃料の再輸出の増加を反映した再輸出の増加によるものである。冷凍キハダマグロの輸出収入が大幅に減少したにもかかわらず、国内出荷量は同期間中に増加した。これは主に冷凍カツオ輸出の収益が増加したことに加え、缶詰またはパウチ詰めマグロ輸出も増加したことによる。輸入支出の年間減少は、石油製品、電気・電子機械器具、電子・電気器具、家具・什器・備品、食料品の輸入が大幅に減少したことが主な原因である。一方、輸送用機器、建設関連品目、機械・機械器具・部品では増加がみられた。2023年1月から4月までの期間全体では、輸出と輸入の総額は2022年の同時期と比べ、それぞれ22%と2%増加した。

モルディブの慢性的な財政赤字は、インフラ整備のための輸入が一因であり、この指標は新型コロナウイルスの流行によって急落した。2022年には、設備投資の増加、利払いの増加、賃金支出の増加により、財政赤字はGDP比114.3%に達した。銀行システムは強固な外貨準備金に支えられて安定を保っているが、政府と銀行セクターのつながりから潜在的な危険性が生じている。さらに、国営企業（SOE）への持続的な援助が財政状況の脆弱性を増幅させている。実際、モルディブは依然として対外債務危機の大きなリスクにさらされており、債務危機の全体的なリスクも高い。公的・公的保証（PPG）債務残高の対GDP比は、景気の回復により、パンデミック期のピークであった2020年の154%から2022年には122.6%まで低下したものの、中期的には高水準が続くと予想される（2023-24年には117%前後）¹⁴。

近年の大規模なインフラ建設は経済成長に貢献したが、債務を大幅に増加させる結果となった。世界銀行（WB）によると、モルディブの債務残高対GDP比率は2018年の58.5%から2019年には推定61.8%に上昇した。財務省（MoF）によると、債務残高対GDP比率は2020年には政府歳入の急激な落ち込みにより138%に上昇したがコロナ禍後の経済の回復を受け、2022年に111%まで低下した。

¹⁴ロイズ銀行ウェブサイト <https://www.lloydsbanktrade.com/en/market-potential/maldives/economical-context>

【輸出入】

モルディブの主要輸入品目と輸出品目は以下のとおりである。

表1 主要輸出入品目

| 【輸出】 | | 【輸入】 | |
|----------|-------|-------------|-------|
| 冷凍魚 | 57.1% | 燃料 | 21.1% |
| 魚加工品 | 29.7% | 飛行機・ヘリコプター等 | 2.0% |
| 冷蔵・チルド魚 | 3.5% | 通信関連機器等 | 1.9% |
| 金属スクラップ等 | 3.1% | ワイヤー・ハーネス等 | 1.6% |
| 魚の餌 | 2.4% | 鉄材 | 1.5% |

(出所：Comtrade, 2023) ¹⁵

モルディブの主要輸出入相手国は次のとおりである。

表2 主要輸入相手国上位 10 カ国

| | 輸入額 (百万USD) | 割合 |
|--------|----------------|-----|
| オマーン | 625.3 | 18% |
| インド | 496.4 | 14% |
| UAE | 416.0 | 12% |
| 中国 | 382.6 | 11% |
| シンガポール | 321.7 | 9% |
| マレーシア | 218.6 | 6% |
| スリランカ | 158.4 | 5% |
| タイ | 100.6 | 3% |
| アメリカ | 87.3 | 2% |
| ドイツ | 57.2 | 2% |

表3 主要輸出相手国上位 10 カ国

| | 輸出額 (百万USD) | 割合 |
|-------|----------------|-----|
| タイ | 78.3 | 49% |
| ドイツ | 15.0 | 9% |
| イギリス | 13.5 | 9% |
| インド | 6.4 | 4% |
| フランス | 5.8 | 4% |
| スイス | 3.5 | 2% |
| イタリア | 3.4 | 2% |
| 日本 | 3.0 | 2% |
| アメリカ | 2.9 | 2% |
| スリランカ | 1.3 | 1% |

(出所：ADB データ) ¹⁶

¹⁵ コムトレード ウェブサイト <https://comtradeplus.un.org>

¹⁶ ADB 「Key Indicators for Asia and the Pacific 2023 Maldives」
<https://www.adb.org/publications/key-indicators-asia-and-pacific-2023>

・対日貿易（日本国財務省貿易統計）

-貿易額

モルディブへの輸出 約 37.2 億円（2021 年）

モルディブから輸入 約 6.7 億円（2021 年）

-主要品目

モルディブへの輸出 船舶用エンジン、貨物自動車、乗用車

モルディブから輸入 魚介類（まぐろ、かつお等）

・主要産業

経済の基盤は観光と水産業である。観光は GDP の約 25%（2022 年）を占める主な外貨獲得源である。モルディブ政府の掲げる 1 島 1 リゾート計画に基づき、全国 1,192 島のうち 159 島がリゾート島となっている。観光業への依存度が高いため、モルディブ政府は水産業をはじめとするほかの産業振興を進めているが、観光が主要産業であり続けると見込まれる。

【産業の割合】

各産業の GDP に占める割合は下図のとおりとなっている。

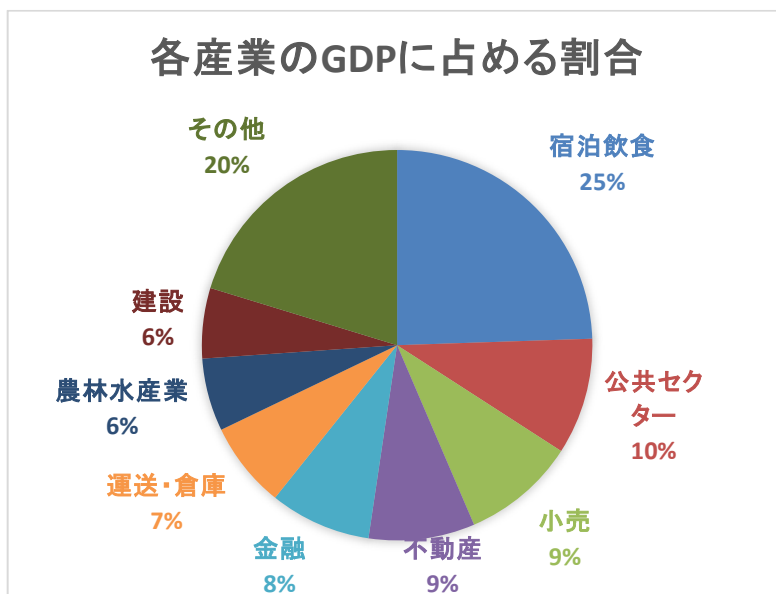


図2 各産業の GDP に占める割合

（出所：ADB データ¹⁶より作成）

モルディブの経済はサービス業を基盤としており、第三次産業が GDP と雇用の約 73%を占めている。観光と関連サービスは、経済の 40%、輸出の 80%、外貨準備の 60%に直接貢献している。

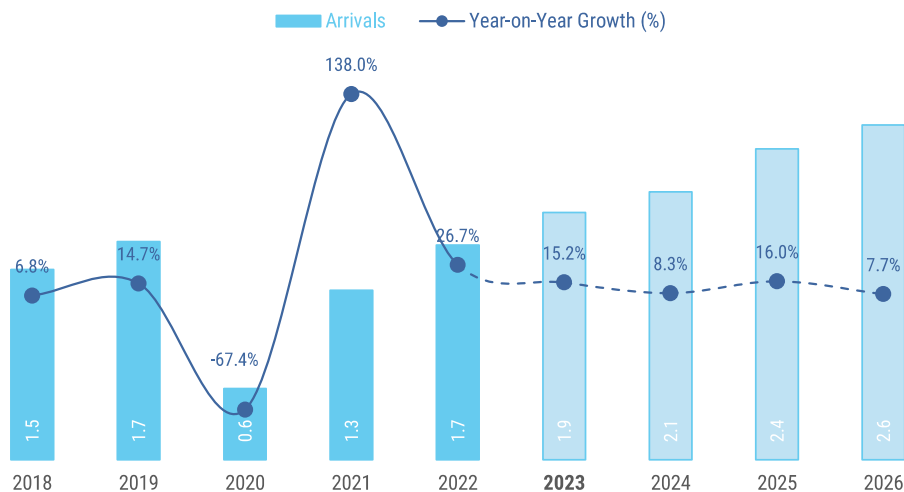
農業部門はGDPの5.3%、総雇用の約8%を占めている⁵。モルディブの農業セクターは、主にココナッツやその他の樹木作物をベースとしており、その他の農作物の栽培面積は約4,000ヘクタールしかない。モルディブで生産される農産物のほとんどは、島や環礁での地産地消に利用されている。漁業は観光業に次いでモルディブで2番目に大きな産業である。モルディブの労働人口の20%以上が漁業部門に従事しており、モルディブからの輸出量と輸出額の98%以上を魚介類が占めている¹⁷。

工業部門は比較的小規模で、GDPの8.9%、雇用の19%を占めている。伝統的な産業は造船業と手工業であり、水産加工業が最も重要である。全体として、製造業がGDPに占める割合はわずか2%と推定される。

【観光業】

モルディブは2020年7月15日、コロナ禍において他国に先駆けて規制を緩和し、海外からの訪問者へのビザ発行を再開した。2022年には多くの国での規制の解除および航空便が再開されたため、観光客の来訪が大幅に増加した。さらに、2022年10月に首都の空港の新しい滑走路の運用が開始されたため、2022年の観光客数は167万人、宿泊数は1,230万泊と、それぞれ当初予想の163万人、1,040万泊を上回った。ロシアによるウクライナ侵攻およびそれに伴う原油価格の上昇および中国のコロナ関連の規制の延長など、マイナスの要素もあったものの、2022年は2021年より26.7%増加し、2019年と比較しても観光客数は98.4%とほぼコロナ禍以前の水準となっている。2023年はさらにホテル数の増加により顧客数が増加し、約190万人になると予想されている。今後も2025年に予定されている国際空港の新しいターミナル開業および、北と南にそれぞれ国際空港の開発が予定されており、観光客数は増加すると見込まれている。全体での宿泊数の平均は7.2泊と予想されており、過去の宿泊日数より増加傾向にある。

¹⁷ ロイド銀行ウェブサイト <https://www.lloydsbanktrade.com/en/market-potential/maldives/economical-context>



Source: Ministry of Tourism, Maldives Monetary Authority

図3 訪問者数と成長率

(出所：モルディブ財務省)

2023年12月時点での上位10カ国の旅行者の国籍は次のとおりとなっており、インドからの訪問者が一番多く、ロシア、中国がそれに続く形となっている。

表4 2023年の観光客上位10カ国

Top 10 Markets, 2023 (end December)

| | Arrivals | Market Share (%) | Rank 2022 |
|------------------|----------|------------------|-----------|
| 1 India | 209,198 | 11.1 | 1 |
| 2 Russia | 209,146 | 11.1 | 2 |
| 3 China | 187,118 | 10.0 | 27 |
| 4 United Kingdom | 155,730 | 8.3 | 3 |
| 5 Germany | 135,090 | 7.2 | 4 |
| 6 Italy | 118,412 | 6.3 | 5 |
| 7 USA | 74,575 | 4.0 | 6 |
| 8 France | 49,199 | 2.6 | 7 |
| 9 Spain | 40,462 | 2.2 | 8 |
| 10 Switzerland | 37,260 | 2.0 | 10 |

(出所：モルディブ観光省)

モルディブ観光法（Law No.2/99）では、観光リゾート、ホテル、ゲストハウス、サファリ船の4種類の宿泊施設が認められており、いずれも観光省への登録が必要で、観光省の定める基準に適合している必要がある。以下にそれぞれの宿泊施設の概要を示す¹⁸。

- ・リゾート：“一島一リゾート”というユニークなコンセプトのもと、宿泊とアメニティを提供しており、ラグジュアリーな国際ブランドによる宿泊施設が多い。これらのリゾートは全環礁に点在しており、33%はマレ環礁にある。
- ・ホテル：モルディブ観光法（Law No.2/99）によると、観光ホテルとは「観光リゾートや観光ゲストハウス以外の施設で、観光客に食事と宿泊、または宿泊のみを提供するために開発され、1日の滞在につき一定の料金を支払うもの」とされている。有人島や空港島にあり、シティホテルやエアポートホテルと呼ばれることもある。さらに、一部のホテルは無人島にもサービスを提供し、宿泊施設と付帯サービスを提供している。過去5年間、ホテル数の変化はごくわずかであった。2022年のモルディブの総ベッド数に占めるホテルの割合はわずか2.7%である。
- ・ゲストハウス：モルディブのゲストハウスは、人口の多い住民島の一等地に位置し、主に低～中予算の旅行者に宿泊サービスを提供している。2022年末までに、モルディブの115の島でゲストハウスが合法的に登録され、観光客に開放されている。モルディブのゲストハウス産業は“ローカル・ツーリズム”の一例として一般的に認知されている。国内観光客に人気があるだけでなく、他国からの旅行者にも魅力的であり、近年その数が急激に増加している。
- ・サファリ船：モルディブを周遊し、さまざまなダイビングスポットや無人島に寄港する船上生活型クルーズである。船内に宿泊施設とアメニティを備え、主にダイバーやサーファーに選ばれている。これらの船には、プロ仕様のダイビング器材と有資格のダイビング・インストラクターが装備されている。

2018年から2022年の5年間で、新型コロナウイルスの流行により2020年に予想外の減速があったものの、施設数は年平均11.9%、ベッド数は年平均8.1%増加した。リゾートの数は2024年1月17日時点で180カ所、ホテル・ゲストハウス・クルーズ船を含めた数は1,146件、全体のベッド数は6万2,532床である¹⁹。

¹⁸モルディブ観光省「Tourism Yearbook 2023」

¹⁹モルディブ観光省「Maldives Tourism Updates~2024年1月18日」

表5 タイプ別宿泊施設数

TOURIST ACCOMMODATION

(as of 17th January 2024)

| | Total Capacity | | Operational Capacity | |
|----------------|----------------|---------------|----------------------|---------------|
| | Nos. | Beds | Nos. | Beds |
| Resorts | 180 | 44,125 | 176 | 43,279 |
| Hotels | 15 | 2,016 | 15 | 2,016 |
| Guesthouses | 811 | 13,691 | 811 | 13,691 |
| Safari Vessels | 140 | 2,700 | 140 | 2,700 |
| Total | 1,146 | 62,532 | 1,142 | 61,686 |

(出所：モルディブ観光省)

オンライン旅行サイトの Trip.com の 2023 年 11 月 28 日の記事²⁰⁾によるとモルディブの宿泊施設の価格帯は、次のとおりである。

表6 モルディブの宿泊施設の価格帯

| ホテルタイプ | 星の数 | 宿泊料金 |
|------------|----------|----------|
| ゲストハウス | 1つ星クラス | 7,000円～ |
| スタンダードなホテル | 2つ星クラス | 1万円～5万円 |
| スーペリアホテル | 3つ星クラス | 7万円～15万円 |
| ラグジュアリーホテル | 4つ星クラス以上 | 15万円～ |

(出所：Trip.com ウェブサイト)

【水産業】

モルディブの漁業ではカツオとキハダマグロの一本釣り漁業が特に盛んである。2009 年 7 月、政府とモルディブ水産加工輸出協会 (Maldives Seafood Processor and Exporter Association) は「混獲がゼロに等しく、環境に優しいモルディブの一本釣りカツオ」のブランディングを強化するため、MSC (海洋管理協議会)²¹⁾の認証取得に向けて動き出した。MSC を取得することによって一本釣りでとれたカツオに付加価値をつけ、伝統的な漁法を守ろうとしたためであ

²⁰⁾ Trip.com ウェブサイト <https://jp.trip.com/hot/articles/モルディブ旅行+費用.html>

²¹⁾ MSC ウェブサイト <https://www.msc.org/jp/what-you-can-do/media-centre/press-releases/モルディブの一本釣りカツオ漁業がMSC認証を取得>

る。2012年11月に「モルディブ一本釣りカツオ」はインド洋初となるMSC認証を取得した。現在では、モルディブの一本釣りカツオは冷凍や缶詰に加工され、MSC認証を取得した数少ないマグロ類として、サステナブル・シーフードが広く普及するヨーロッパを中心に輸出されている。MSC認証取得以前も「環境に優しい方法で漁獲されたカツオ」として通常よりも高い値段で取引されていたが、MSC認証取得後は需要が急速に拡大し、供給が追いつかない状況が続いている。

1.1.2. 水産物を含む食品市場の概況

1.1.2.1. 市場概況

| | |
|------------------|---|
| 味覚、嗜好上の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・魚の消費量が世界一である。マグロ・カツオをはじめとした魚料理が多い。カツオを塩茹でした料理もあり、モルディブ料理は日本人にも親しみやすい。 ・辛いものが好きな傾向である。 ・ティータイムの軽食には魚入りのサモサのような揚げ物が多い。 ・リゾートでは世界各国の料理が提供されている。 |
| 制度的制約 | <ul style="list-style-type: none"> ・全ての食品に対し、ハラール認証が必要である。 ・食品の輸入の際には英語のラベルが必要である。 ・生産国が発行する、食品安全認証が必要である。 ・住民島では酒類の販売及び豚肉の販売は禁止されている。 ・申告は電子ででき、到着と同時に通関ができるため、比較的スムーズである。 |
| 商流・物流・商習慣 | <ul style="list-style-type: none"> ・マレ市内のスーパーや高級食材店において、海外から輸入されたものが販売されている。 ・水産物や野菜は市場で卸売され、市内や住民島のスーパーなどで販売される。 ・日本食材はマレ市内の高級輸入食材店で販売されているが、日本から直接輸入されたものではなく、東南アジアや欧米産の日本食材である。 ・各リゾート自前の船を所有しており、船で定期的に食材を引き取りにマレ市内や空港に行く。 ・リゾート向けの需要が高いことから、コールドチェーンは整備されている。リゾートの船にも冷蔵庫や冷蔵庫が搭載されている。 |
| 外食・小売等の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・マレ市内にも各国料理を提供するレストランがあるが、日本食を専門に提供するレストランは2件のみである。メニューとして日本食を提供する店もある。 ・高級セグメントに属するリゾートのほとんどで日本食が提供されている。 |
| 日本食普及状況等 | <ul style="list-style-type: none"> ・上記の通り、リゾートで日本食は提供されているものの、日本から直接輸入されている食材は少ない。 |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・乾燥食品：マレ市内の高級食材店の一部で醤油、マヨネーズ、海苔などが販売されている。カップラーメンなどは日本製のものほとんどなく、タイ・韓国製のものが多く見られた。 ・生鮮・冷凍食品：マレ市内の食材店においては日本産のものとして販売されているものは見つからなかった。 |
|--|--|

【輸入量】

WTO によると、モルディブの農水産物の輸入量は輸入全体額の約 24%を占める。そのうち、上位 5 品目は乳製品、鶏肉類、飲料、パン類、コメなど日用品が占める²²。モルディブ金融管理局の 2016 年～2021 年の食品輸入額の推移を見ると、食品の輸入もコロナ禍の影響を受けて大きく減少していたことがわかる。

**Breakdown in economy's total imports
By main commodity group, % (2021)**

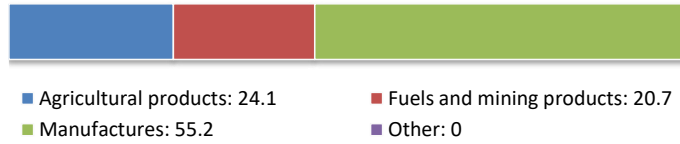


図4 輸入額の 카테고리別割合

(出所：WTO)

表7 輸入品目の上位 5 品目

| 品目 | 金額 (百万ドル) |
|-----|-----------|
| 乳製品 | 29 |
| 鶏肉類 | 27 |
| 飲料水 | 23 |
| パン類 | 21 |
| 米 | 21 |

(出所：WTO)

²²WTO 「貿易概要 2023 モルディブ」

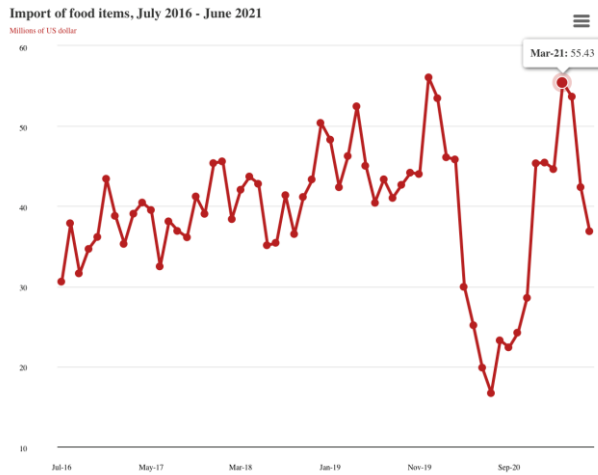


図5 食品輸入額の推移 (2016年-2021年) ²³

(出所：モルディブ財務省)

【水産物の輸入量の推移】

モルディブは海に囲まれている国であるものの、漁獲量の約75%～90%をカツオとキハダマグロが占める。リーフフィッシュやロブスターなども漁獲されているが、エビやイカなどは輸入に頼っている。

モルディブに輸入されているすべての商品の統計は、モルディブ税関の統計ページ (<https://www.customs.gov.mv/Statistics>) から参照することができる。水産物のうち、ホタテ、マグロ、海藻、カキ、ナマコ、クラゲの2017年から2022年までの輸入量の推移を以下に示す。

表8 ホタテの輸入量推移

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------------|------------|------|------|------|------|------|-------|
| 輸入量 (世界) | トン | 41.3 | 45.7 | 68.6 | 15.1 | 56.2 | 74.0 |
| 消費量 (世界) | 百万 ルフィア | 15.5 | 16.7 | 17.7 | 5.9 | 16.7 | 24.8 |
| 輸入量 (日本) | キロ | 0.47 | 1.5 | - | 24.5 | 33.5 | 63.1 |
| 輸入量 (日本) | 千 ルフィア | 0.8 | 3.3 | - | 5.1 | 47.8 | 114.3 |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成²⁴

²³モルディブ財務省 <http://www.mma.gov.mv/mobile/viya/series/2052>

²⁴モルディブ税関 <https://www.customs.gov.mv/Statistics>

表9 マグロの輸入量推移

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 輸入量 (世界) | トン | 518.1 | 34.6 | 500.8 | 16.8 | 48.7 | 13.7 |
| 消費量 (世界) | 百万 ルフィア | 37.7 | 10.8 | 44.0 | 4.9 | 11.8 | 5.1 |
| 輸入量 (日本) | キロ | 8.9 | 380.8 | 139.6 | 216.2 | 902.4 | 904.5 |
| 輸入量 (日本) | 千 ルフィア | 15.3 | 274.5 | 561.5 | 243.8 | 729.6 | 1,239.4 |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成²⁴

表10 海藻の輸入量推移

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------------|------------|-------|------|-------|------|-------|-------|
| 輸入量 (世界) | トン | 42.3 | 34.5 | 127.8 | 38.3 | 66.0 | 57.2 |
| 消費量 (世界) | 百万 ルフィア | 5.2 | 5.2 | 6.6 | 2.8 | 6.8 | 7.7 |
| 輸入量 (日本) | キロ | 231.1 | 12.0 | 10.9 | 3.6 | 660.5 | 199.2 |
| 輸入量 (日本) | 千 ルフィア | 5.7 | 16.1 | 19.9 | 4.7 | 213.4 | 268.0 |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成²⁴

表11 カキの輸入量の推移

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 輸入量 (世界) | トン | 166.1 | 295.5 | 411.5 | 146.6 | 112.8 | 130 |
| 消費量 (世界) | 百万 ルフィア | 8.1 | 8.2 | 9.7 | 3.6 | 7.6 | 6.8 |
| 輸入量 (日本) | キロ | - | - | 1.8 | - | - | - |
| 輸入量 (日本) | 千 ルフィア | - | - | 2.9 | - | - | - |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成²⁴

表 12 ナマコの輸入量の推移

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------------|------------|------|------|------|------|------|------|
| 輸入量 (世界) | トン | 5.8 | 0.6 | 1.6 | 2.5 | 2.9 | 5.5 |
| 消費量 (世界) | 百万 ルフィア | 0.66 | 0.1 | 0.1 | 0.8 | 0.17 | 0.4 |
| 輸入量 (日本) | | - | - | - | - | - | - |
| 輸入量 (日本) | | - | - | - | - | - | - |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成²⁴

表 13 クラゲの輸入量の推移

| | 単位 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|-------------|------------|------|------|------|------|------|-------|
| 輸入量 (世界) | トン | 0.1 | 0.7 | 0.06 | 0.08 | 0.06 | 0.1 |
| 消費量 (世界) | 百万 ルフィア | 0.07 | 0.05 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.025 |
| 輸入量 (日本) | | - | - | - | - | - | - |
| 輸入量 (日本) | | - | - | - | - | - | - |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成²⁴

【日本から輸入している水産物】

2022年の日本からモルディブに輸出された水産物（HSコードが30から始まるもの）の輸血量と輸出額は次のとおりである。

| HSコード | HSコードの品目 | 量 (KG) | CIF額 (ルフィア) |
|-----------|--------------------------|--------|-------------|
| 303890099 | その他のリーフフィッシュ (冷凍) | 653.25 | 730,990.68 |
| 303420010 | キハダマグロ (冷凍) | 444.50 | 510,143.16 |
| 306140000 | カニ (冷凍) | 195.00 | 424,559.29 |
| 308220000 | ウニ(冷凍) | 41.95 | 329,965.05 |
| 303490000 | その他のマグロ (冷凍) | 204.70 | 310,978.42 |
| 303840000 | シーバス (冷凍) | 103.70 | 307,265.42 |
| 308219000 | ウニ(生もしくは冷蔵) | 11.75 | 192,210.21 |
| 304870013 | BELLY FLAP (メバチマグロ) (冷凍) | 85.00 | 171,655.30 |
| 307220000 | ホタテ (冷凍) | 61.65 | 110,716.23 |
| 304870014 | BELLY FLAP (キハダマグロ) (冷凍) | 40.00 | 80,393.53 |
| 306170011 | エビ Shrimp(冷凍) | 48.90 | 74,413.39 |

| | | | |
|-----------|----------------------------------|--------|-----------|
| 303540010 | 冷凍サバ | 104.00 | 70,509.91 |
| 303420012 | キハダマグロ食用皮 (冷凍) | 38.50 | 65,541.95 |
| 307870000 | その他のアワビ類 (生、冷蔵、もしくは冷凍以外) | 15.30 | 49,559.76 |
| 304991099 | 冷凍マグロ | 45.00 | 49,246.31 |
| 303630000 | 冷凍タラ | 51.10 | 38,704.26 |
| 304870018 | メバチマグロ(冷凍) | 35.00 | 37,978.99 |
| 306170010 | エビ Prawn(冷凍) | 13.00 | 33,168.27 |
| 307430000 | イカ (冷凍) | 52.00 | 31,096.83 |
| 302890013 | リーフフィッシュ(生もしくは冷蔵) | 21.90 | 28,859.79 |
| 303530000 | 冷凍イワシ | 45.90 | 20,935.51 |
| 303260000 | 冷凍うなぎ | 25.10 | 20,112.82 |
| 307830000 | 冷凍アワビ | 7.90 | 19,111.20 |
| 304710000 | 白身魚フィレ (冷凍) | 25.00 | 14,740.82 |
| 303190000 | サケ (冷凍) | 5.00 | 12,789.99 |
| 305591012 | マグロ (乾燥) | 7.00 | 6,989.77 |
| 303430000 | 冷凍カツオ | 4.80 | 6,498.84 |
| 303910011 | 冷凍魚卵 | 2.50 | 6,311.00 |
| 307290000 | その他のホタテ類 (生、冷蔵、冷蔵以外) | 1.50 | 3,624.90 |
| 305540000 | メカジキ、カツオ、カジキ、カジキなど (スモークを除く) の干物 | 7.70 | 2,894.90 |
| 307320000 | ムール貝 (冷凍) | 14.00 | 1,866.78 |
| 305599020 | リーフフィッシュの干物 | 2.00 | 1,194.32 |
| 309100000 | 食用の魚のペレット | 1.00 | 891.81 |
| 306950000 | その他のエビ (生、冷蔵、もしくは冷凍以外) | 0.49 | 874.83 |
| 305420000 | ニシンの燻製 (切り身を含む) | 1.00 | 614.74 |
| 305499012 | 魚の燻製 (切り身を含む、食用魚の内臓を除く) | 1.00 | 614.74 |

出所：モルディブ税関の資料を基に作成

【観光客の志向】

モルディブ観光省が旅行者に対して行ったアンケート調査の結果、モルディブでは、60%の回答者がオールインクルーシブの食事付きプランで滞在した。

宿泊先のタイプ別に見ると、リゾートに滞在した回答者のほとんどはオールインクルーシブの食事プランを選んだが、サファリ船に滞在した回答者のほとんどは1日3食付き、ゲストハウスに滞在した回答者のほとんどはベッド&ブレイクファーストの食事プランを選んだ。

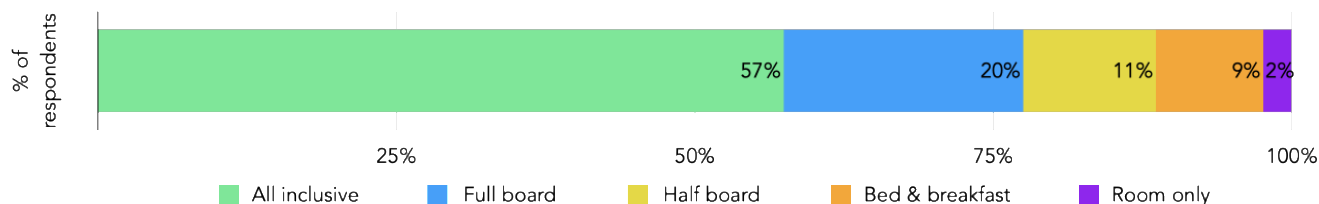


図6滞在先の食事のプラン²⁵

(出所：モルディブ観光省)

【マレ市内・フルマレで販売されている日本食材】

マレ市内の 5 店舗の日本食を取り扱っている食材店を訪問した。いずれも高級食材店に該当する食材店で、たとえばしょうゆ 600ml で約 880 円、マヨネーズ 130ml で 450 円と、日本の 3 倍～5 倍程度の価格で販売されていた。また、日本産のものはほとんどなく、マヨネーズやしょうゆもほとんどが東南アジア・中国およびヨーロッパで製造されたものであった。空港に隣接するフルマレでは観光客などを顧客とするコンビニエンスストアのような店舗で、カップラーメンなどが販売されていたが、韓国・タイ・シンガポール製がほとんどで日本製のものは見られなかった。



²⁵モルディブ観光省「Maldives Visitor Survey 2022」



カニカマ (タイ産)



すし用コメ (米国産)



海苔 (英国から輸入)



みそ (英国から輸入)



照り焼きソース



餃子の皮



ドレッシング



マヨネーズ



乳酸菌飲料

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>わさび</p> | <p>ソース類</p> | <p>せんべい (中国産)</p> |
|  |  |  |
| <p>しょうゆ (中国製)</p> | <p>酢</p> | <p>カップラーメン (マレーシア製など)</p> |
|  | | |
| <p>カップラーメン (韓国製)</p> | | |

写真：スーパーマーケットで売られている日本食材

【マレ市内・フルマレで販売されている輸入水産物】

前述のとおり、モルディブでは水質および海流の関係上、エビやイカなどは採れず輸入せざるを得ない。マレ市内の多くのスーパーでもインド・中国・バングラデシュ・UAE・タイ・スリランカなどから輸入されたエビ・イカ・タコ・カニなどが販売されていた。サーモンはヨーロッパやニュージーランドから輸入されており、価格も100gで100ルフィア（約1,000円）以上であった。

| | | |
|---|---|--|
|  |  |  |
| <p>ムール貝 (中国)</p> | <p>イカ (中国)</p> | <p>タコ (インド)</p> |
|  |  |  |
| <p>カニカマ (UAE)</p> | <p>エビ (インド)</p> | <p>エビ (インド)</p> |

| | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------|
| | | |
| <p>サーモン (ニュージーランド)</p> | <p>シーフードミックス (タイ)</p> | <p>タコ (インド)</p> |
| | | |
| <p>ホタテ (インド)</p> | <p>冷凍水産物の陳列</p> | |

写真：スーパーマーケットで売られている輸入水産物

【地元産の水産物】

マレ市内の水産物の市場では、主にマグロやカツオおよびリーフフィッシュおよび乾燥したカツオや日本の煮干しのような魚が販売されている。スーパーなどでは、モルディブ産のツナ缶が販売されている。2020年のFAOのデータによるとモルディブは一人当たりの魚の年間消費量が87.3kgで世界一である。



カツオ



リーフフィッシュなど



解体の様子



小型の魚



氷づけ容器



かつお節



かつお節 (半生)



ロブスター (冷凍)



写真：地元産の水産物

1.2. 対象観光地におけるホテルリゾート等の概況

1.2.1. 大手ホテルリゾート

本調査では、現地協力者などを通じて可能な限り、対面でヒアリング調査を実施した。一方、時期的にリゾートのトップシーズンということもあり、アポイントが調整できなかったところについては、オンラインおよびアンケート記入形式による調査も実施した。

① Four Seasons (フォーシーズンズ) (訪問日：2023年12月15日)

| 基礎情報 |
|---|
| <p>【リゾート名】 Four Seasons Kuda Huraa (フォーシーズンズ クダフラ)</p> <p>【立地】 北マレ環礁 Kuda Huraa (クダフラ) (国際空港から 30分程度)</p> <p>【カテゴリー】 高級リゾート</p> <p>【価格帯】 2,000ドルが一番安価な価格帯。 3～4ベッドルームで 6,000～7,000ドル。</p> <p>【部屋数】 96室</p> |
| ヒアリング調査内容 |
| <p>【ヒアリング対応者】 財務部長 (スリランカ出身)</p> <p>【リゾートの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モルディブに全部で3カ所 (1カ所はプライベートリゾート) ある Four Seasons のうちのひとつ。財務部長は全部の財務を管轄している。 ・ スタッフは訳 400名いる。スタッフの満足度で常に高い評価を得ている。35カ国の国籍のスタッフが在籍している。 ・ シンガポール人が島のオーナーで Four Seasons がホテルの運営を行っている。 <p>【観光客の国籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここ数年はロシア人、アメリカ人が多かったが、現在中国人が増えてきている。シーズンにより顧客層が異なる。休暇の関係で 12月～3月は欧米系が多く 4月～10月はアジア系が多い。日本人は 5月～8月が多い。 ・ コロナ禍以前は日本の海外結婚式サイトと提携していて、チャペルのある Landaa Giraavaru (ランダーギラーヴァルー) には多くの日本人が来ていたが、まだコロナ禍前の水準には戻っていない。 |

【レストランの概要】

- レストランは4つあり、メインレストラン、イタリアン、インド、アラカルトレストランである。
- ホテルではフルボードかハーフボードの提供であり、オールインクルーシブは行っていない。
- 日本料理レストランはないが、メインレストランでアジア料理の一つとして日本料理を提供している。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- 顧客は平均で5~7泊、パッケージで8泊程度するため、飽きないようにいろいろなものを提供できるようにしている。
- パッケージプランとしては4泊コテージ、4泊水上コテージといったものがある。また、もう一つのリゾート（Landaa Giraavaru）の宿泊がついたパッケージ（3in1）もある。

【食材の調達】

- 現地で調達できるものは現地で調達する方針がある。魚類やロブスターなどを現地で調達している。一方、現地でできないものや、現地の季節的に獲れない時期には、輸入している。たとえば、ホタテ、カニ、イカ、エビなどは輸入している。エビ、カニはスリランカから輸入している。
- 食材の調達で重要な点は、①安定して調達できること②すぐに調達できること③品質で、価格は比較的重視されていない。
- 水産物はAmagiというスリランカの子会社やSea & Sunsというインド企業でモルディブに拠点がある会社から調達している。
- あらゆる食材をブラインドテストで決めており、誰か1人がコネクションで決めるということはない。ブラインドテストでは、食材の調達元を明かさずに、シェフが同じように調理したものを、5名の社員で試食し、審査し最も点数が高かったところから購入する。6カ月に1回実施する。品質管理のために実施しており、公正な方法で決定している。
- 食材の調達は週に4回マレの事業者の倉庫に冷蔵庫付きの船で運搬している。リゾート内にも冷蔵倉庫がある。

【日本食材について】

- 日本から直接輸入しているものは今のところない。日本食材はシンガポール・ドバイの業者から購入している。
- 水産物としてはうなぎ・タコなどおよび刺身用のイカ・タコなどをアジア人の旅行シーズンに合わせて輸入している。
- 輸送量が高くなると考えられるため、輸送単価（箱ごとの輸送費用）を確認した方がよい。
- コメはニシキライスが有名で、それを購入している。
- 直接購入できるもののリストがあれば、検討することができる。

【課題】

- 日本食材を直接調達できる場所がないことが課題である。日本食材を輸入する事業を行う際には、食材の安定供給や品質管理のための投資が必要になる。

【コメント】

- ・ 水産物の輸入は輸送中の温度管理や、モルディブ国内での設備投資などが必要になることから、コメ・調味料などの温度管理が必要のないものから始めるのがよい。
- ・ 日本からは他にドアの鍵などを輸入している。船のエンジンも日本製である。
- ・ Landaa Giraavaru に、日本料理レストランを開店することを検討している。



空港の待合室



移動のボート



ロビー




レストランの外観



食材を運ぶ船



食材倉庫

| | | |
|---|---|--|
|  <p>ASIAN Snacks & Main Course</p> | <p><i>Snacks</i> Spider Roll \$30 Softshell Crab Tempura, Lettuce, Avocado, Wasabi, Tobiko, Creamy Spicy Sauce</p> <p>Salmon & Avocado Maki \$42 Salmon, Charred Avocado, Pickled Yellow Radish, Cucumber, Caviar</p> <p>Shrimp Tempura Sushi Roll \$42</p> <p>Ebi Nigiri (3 pieces) \$26 Wasabi Cauliflower, Chili Jam</p> <p>Charred Avocado \$24 Lime, Sour Cream, Tomato-togarashi Salsa, Charred Coriander</p> <p><i>Warm Snacks</i> Satay Chicken or Beef \$54 / \$60 Malaysian Nasi Goreng served with Chicken Satay and Fried Egg \$55</p> <p><i>Mains</i> Wok Fried Chicken \$58 Wok Fried Tofu with Minced Chicken \$48 Wok Fried Beef with Mild Spicy Bean Sauce \$72 Thai Green Prawn Curry (3 Pieces) \$60 Thai Red Vegetable Curry \$45 All served with Jasmine Rice</p> <p><i>Rice</i> Vegetable Fried Rice served with Fried Egg \$45 Chicken Fried Rice with Scallion and Vegetables \$50</p> <p>All prices are in US dollars, subject to 10% service charge and applicable taxes</p> <p>FAH SEAWAY RESTAURANT</p> | |
| <p>アジア料理のメニュー</p> | | |

② Anantara (アナンタラ) (訪問日 2023年12月16日)

基礎情報

- 【リゾート名】 Anantara (アナンタラ)
- 【立地】 南マレ環礁 マレ市内から 30分程度
- 【カテゴリー】 高級リゾート
- 【価格帯】 815ドル~3,700ドル
- 【部屋数】 197室

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 地区購買部長 (インド出身)

【リゾートの概要】

- ・ 一つのエリアに異なる三つのリゾート島があり、Anantara Dhigu (アナンタラディグ) は家族向け、Anantara Veli (アナンタラヴェリ) は18歳以上の大人のみが滞在できる。Naladu Private Island (ナラドゥプライベートアイランド) は20部屋のみの小規模な島である。Naladu から Dhigu, Veli にはいけるが逆はできない。
- ・ 一つのラグーンの中に三つの別々のリゾートと一つのバックオフィスの島があり、それぞれ船で移動しなければならない。食材もそれぞれのリゾートに船で配達しなければならない。
- ・ モルディブ全体のピークシーズンはあるが、Anantara の稼働率は通年であまり変わらない。
- ・ スタッフは三つのリゾートで 500名程度いる。

【観光客の国籍】

- ・ 欧米系、ロシア系、アジア系が多い。リピーターが多い。

【レストランの概要】

- 日本料理を提供する「折り紙」は Veli の中にある。
- 60 ドルのパッケージ料金を予約時に支払わなければならない。「折り紙」は人気のため、予約しなければならない。メニューはおまかせで 80 ドル程度である。
- 「折り紙」ではワインペアリングのセットなども提供している。
- 鉄板焼きが一番人気である。1 回の滞在につき、2 回予約できるタイミングがあるが、常に予約で満席である。
- 欧米系、ロシア、アラブ系のゲストが多い。中国、韓国のゲストもいるが、日本人は滞在していても、リゾートで日本食をあえて食べない傾向にある。
- 日本人のシェフはいない。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- 滞在日数は 5 日～7 日程度である。

【食材の調達】

- 現在は週に 1 回ドバイから飛行機で運搬し、空港にリゾートの船でピックアップをしている。
- 食材調達の船は週に 1 回～2 回マレに行く。
- 1 カ月に 1 回前月 10 日に支払いをまとめて行う。
- 食材の調達は調達係が見積し、サンプルをもらってシェフの許可をもらって発注する。酒は、保税倉庫から購入している。

【日本食材について】




- 日本食材を提供できるサプライヤーを長年探してきた。もし、日本食材を提供できるのであれば、Anantara のタイ本社に紹介することもできる。
- 日本から直接調達できれば、コストが下がるだけでなく商品の信頼性が上がる。
- 現在は日本食材を主にドバイから調達している。シンガポールから調達しているものもある。
- ホタテは日本産のものを使用しているが、日本から調達しているわけではなく、タイやドバイの業者から購入している。


【課題】

日本食材をまとめて調達できる場所がない。

【コメント】

- 日本人のシェフを探しているが見つけれられてない。
- 需要が高いため、さらにモルディブで他のリゾートを展開することを検討している。その中で、新しい日本料理店を増やす計画もある。
- 肉、魚の輸入には Health Certificate (衛生証明書) の原本が必要である。この原本は商品と一緒に届かなければならない。他の書類は、オンラインで提出することができる。Health Certificate は事前にオンラインで許可を得て、原本を持参する。
- 上記の他に、英語のラベルと品質保持期限の記載が必要である。品質保持期限が 10 カ月以上ないと輸入することができない。
- 最初は問題が起きるかもしれないが、確認できた後はスムーズに Clearing Agent (通関業者) を活用して通関することができる。

| | | |
|---|---|--|
|  |  |  |
| <p>食材の倉庫</p> | <p>コメ (米国産)</p> | <p>ガリ・漬物</p> |
|  |  |  |
| <p>わかめ</p> | <p>海苔</p> | <p>調味料</p> |
|  |  |  |
| <p>アラビア語のラベル</p> | <p>日本料理店 (内観)</p> | <p>日本料理店 (外観)</p> |

| | |
|---|--|
|  | |
| 日本料理店の酒 | |

③ Westin Resort (ウェスティンリゾート) (訪問日：2023年12月17日)

| |
|--|
| <p>基礎情報</p> |
| <p>【リゾート名】 The Westin Maldives Mirihadhoo Resort (ザウェスティンモルディブミリアンドゥリゾート)</p> <p>【立地】 Baa 環礁</p> <p>【カテゴリー】 高級リゾート</p> <p>【価格帯】 一番多い価格帯は 800 ドル程度のプレミアム価格帯となる。</p> <p>【部屋数】 70 室</p> <p>【利用客数】 通常 100 人程度が滞在しているが、ハイシーズンには 140 名程度の滞在者となる。</p> |
| <p>ヒアリング調査内容</p> |
| <p>【ヒアリング対応者】 飲食部長 (インド出身)</p> <p>【リゾートの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 100%日本企業のベルーナが所有しており、運営委託により経営されている。2018年にオープンした。 Westin のコンセプトがあり、Eat Well, Sleep well, Play well, Feel well, Work well, Move well に従い、それぞれのこだわりを持っている。 12月15日くらいから1月10日くらいがトップシーズンで、12月27日～1月6日にはイベントが開催される。その後も中国の新年、バレンタインデー、イースターなどのイベント時に滞在者が増える。 スタッフは200人～210人程度である。比較的小規模でスタッフの人数も限られていることから、各スタッフがマルチタスクで働いている。 <p>【観光客の国籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧米系、ロシア系が多い。特にアメリカ人は Westin がマリオット系列であることから多い。マリオット系列はモルディブに現在7軒あり、さらにもう1カ所を2026年にオープンする予定である。 アジア系は台湾、香港などから来るゲストが多いが、中国の本土から来る人は少ない。日本人のゲストは今後増える見込みである。 |

【レストランの概要】

- レストランはメインレストラン、日本料理、サンセットバー、東南アジアの屋台料理を提供するホーカー、特別アレンジ（ルームサービス・ビーチのディナーなど）の5つのスタイルがある。
- Pearlという日本料理レストランがある。5皿のコースで夜のみ営業している。料理の内容は毎日変わる。
- 現在は炉端焼きとして提供しているが、レストランをリノベーションし、鉄板焼きができるようにする予定である。
- 24席と座席数が限られているため、4日の滞在につき一回しか利用できない。ハーフボードの場合、滞在中1回のみ利用できる。
- フルボードではない場合、150ドルで、日本酒ペアリング付きの場合、プラス75ドルである。
- 特に中国人、欧米人に人気が高いが、インド人、アラブ人、アメリカ人の日本食を食べたことがない人は、日本料理にわざわざ挑戦しようとなし。寿司などの生魚のイメージがあるため、日本料理を敬遠する傾向もある。こういったゲストに日本食のプロモーションをすることは難しいと感じている。
- 日本人は日本との比較になるため、あまり利用しない（おそらく値段が高いため）。
- 日本食は技術的にも少し特殊であるため、料理人のトレーニングも必要である。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- フルボード、ハーフボード、オールインクルーシブ全ての対応をしている。予約をしている国のパッケージによって内容が異なる。

【食材の調達】

- 新鮮さと、地元への貢献の観点から、できる限り地元の水産物を調達している。
- サーモン、ウニ、エビなど地元で調達できないものはドバイから調達している。ホタテは日本の北海道産、牡蠣はフランス産をドバイから輸入している。
- ドバイのサプライヤーと直接契約を締結しており、直接オーダーを送り送ってもらう。輸送は飛行機でドバイからマレについたものを船でリゾートまで運んでいる。
- 通常は7日～10日に1回オーダーをするが高シーズンには4～5日に1回のオーダーとなる。
- エミレーツ航空は20t/週の食材をドバイからモルディブに運んでおり、リゾートに対するディスカウントがある。
- ドバイであれば何かをオーダーするとすぐに調達できるため、利便性が高い。

【日本食材について】

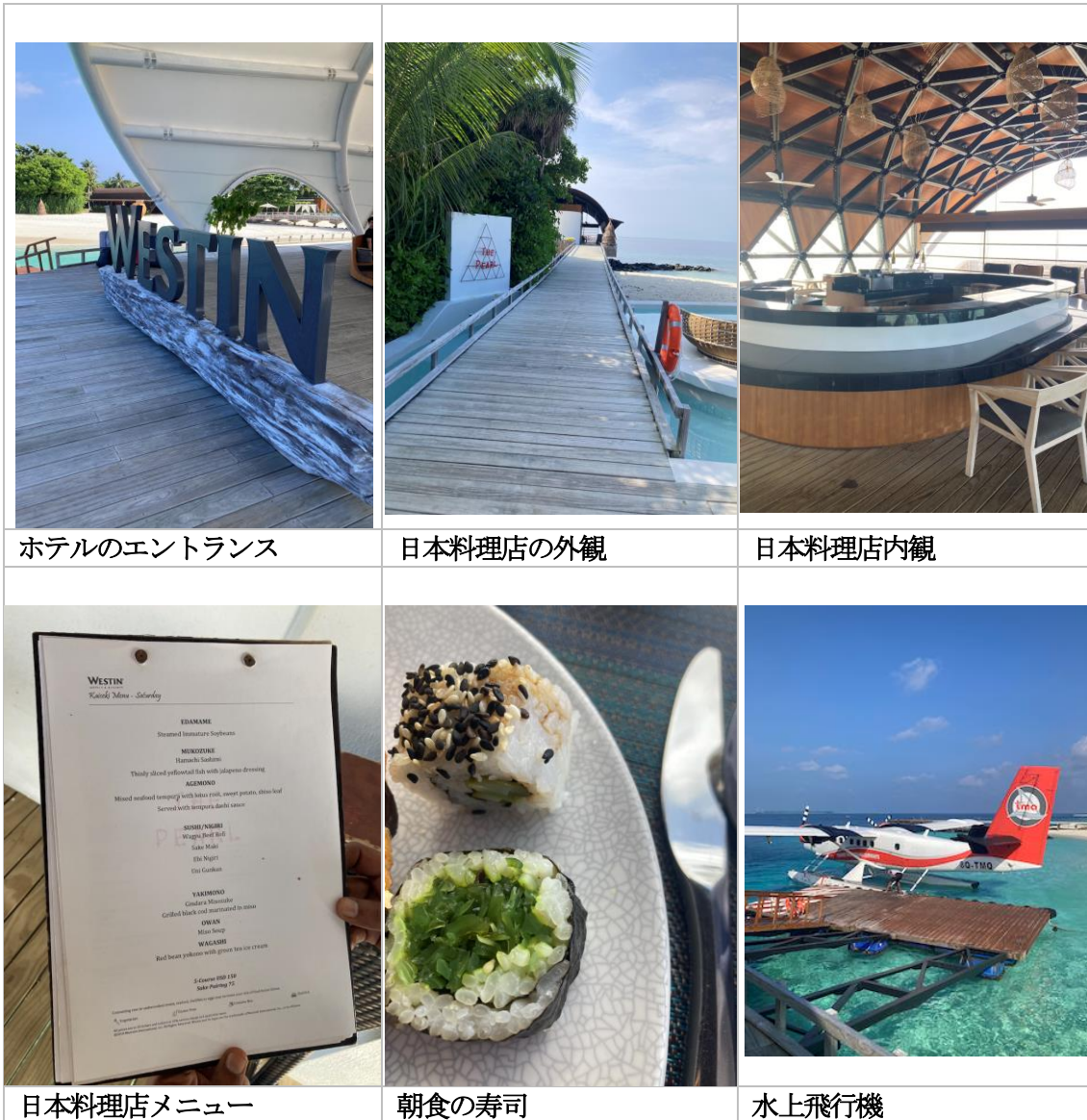
- 日本食材もドバイから調達した方が利便性があり、日本からの調達について、現在は検討していない。
- 品質については問題がないと考えられる。プレミアム価格帯の場合は価格を気にしないが、中価格帯の場合は価格にセンシティブな場合もある。

【課題】

- 日本食を調達する際の、ロジスティックが問題である。

【コメント】

- 日本人のシェフを探している。以前（2019年頃）はいたが、現在はいない。日本人のスタッフもいない。



④ CORACORA RESORT (コラコラリゾート) (オンラインヒアリング日: 2023年12月26日)

基礎情報

【リゾート名】 CORA CORA RESORT (コラコラリゾート)

【立地】 ラー環礁

【カテゴリー】 高級リゾート

【価格帯】 中の上クラスで600ドル～。上クラスのリゾートは1,000ドル以上。

【部屋数】

【利用客数】

- ・ 12月現在は Festive Season と呼ばれるトップシーズンであり、100%の稼働率である。1月、2月も80%—90%の稼働率を見込んでいる。

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 飲食部長 (日本人)

【リゾートの概要】

- ・ オーナーは日本人である。オーナーの他に2名日本人が財務面・管理面で経営に携わっている。
- ・ 2018年に買収をし、2020年～2021年にかけてリノベーションを行い、2021年10月に開業した。開業後約2年である。
- ・ 6月、11月はハネムーンのゲストが多く、100室中10室を占める。
- ・ スタッフの55%がモルディブ人スタッフである。その他インド・スリランカ欧米をはじめ、18～19カ国のスタッフが在籍している。

【観光客の国籍】

- ・ 日本人は3%程度と少ないが、顧客の伸び率で見ると10%以上増えていて、イギリスに次いで2番目に高い伸び率である。今後タイアップしている旅行会社を通じてさらに増える見込みである。

【レストランの概要】

- ・ レストランは4つあり、イタリアン、アジア料理、多国籍料理、日本料理である
- ・ モルディブ全体の日本料理のレベルが高くないため、オーナー自ら試行錯誤している。
- ・ 日本料理レストランはモルディブ人スタッフがリーダーであり、5人のメンバーがいる。インドネシア2名、モルディブ2名である。
- ・ YouTubeなどで日本食を学んでいる。出汁の取り方から学び、1時間かけて味噌汁を作っている。
- ・ オールインクルーシブであるが、他のレストランと比較しても、日本食は予約が多く、いつもいっぱいである。
- ・ ホテルの宿泊客と同等の割合である (ヨーロッパ30%、ロシア・CIS 30%、インド・香港などのアジア。米国は少ない。)
- ・ 日本料理店は席数の関係から原則的に4日に1回利用できることになっているため、滞在期間中の利用回数は1.5回～2回である。
- ・ オールインクルーシブであることから、必ずしも質を上げて満足度は変わらない。以前追加の課金をしてホタテ・ロブスターを提供したことがあったが、あまり顧客の反応は良くなかった。質を高めることを検討する場合、経済性との対比で原価を上げることを検討しなければならない。

- ・ シェフは1週間日本のレストランで研修を行った経験を持ち、技術のレベルが上がった。
- ・ 日本食は夜のみの営業である。
- ・ 日本食以外にもオーナーが保温ジャー、魚の骨抜き、卵焼き器などを持参し、日本食が作れるようになってきた。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- ・ 平均滞在日数は6.6泊である。
- ・ オールインクルーシブである。

【食材の調達】

- ・ ドバイのサフコから調達している。ドバイに集まったものを持ってきている。また、サフコはモルディブにも倉庫を持っているため、そこからも調達している。
- ・ 週1回冷凍庫付きの船で運んでいる。
- ・ 各水産物の調達先は次のとおり
 - ムール貝：チリ・オランダ
 - 貝類：UAE
 - クラブミート：ベトナム
 - とびこ：日本
 - ウナギ：中国
 - すし用えび：ベトナム
 - すし用のり：日本
 - はまち：日本
- ・ シェフがメニューを決め、購買担当が見積を取得し、発注する。
- ・ モルディブ国内の調達はツナやパパイアなどの果物に限られるが、調達できる量が安定しないことから調達しづらい。ロブスターは35ドル/Kgとあまり安くない。現在もリーフフィッシュは地元の漁師から購入している。
- ・ ホテルの食材の原価は28%程度を想定している。

【日本食材について】

- ・ 日本からの日本食材の調達はオーナーからの強い要望もある。オーナー自ら日本から食材をハンドキャリーしている。
- ・ 日本のすし屋にある水産物を調達したい。冷凍技術を持つ会社や、冷凍倉庫の会社と提携して輸入したいと考えている。
- ・ すしに使うコメや調味料などもドバイ経由で輸入しているが、日本とは味が異なることから日本のものを入れたいと考えている。

【課題】

- ・ 日本から仕入れたいと言う要望はあるものの、オールインクルーシブであることから、原価と質のバランスを取る必要があり、独自での調達はコストがかかりすぎる。
- ・ オールインクルーシブであるため日本食材の価格が高いこと自体より、それを費用に転嫁できないことが問題である。

【コメント】

- ・ 中の上クラスのホテルでは質をあげることが難しいことから、超高級をターゲットにす

るのが良い。超高級ホテルはそれほど数が多いことから、日本の商社が対応するというより、中小企業が取扱うレベルである。個人商店規模がロジスティクのコネクションを活用して行うイメージである。10年～20年かけて日本食のマーケットを広げていくことが考えられる。



メニューの一部（リゾートより提供）

⑤ Siyam World (シヤム ワールド) (オンラインヒアリング日：2024年1月13日)

基礎情報

【リゾート名】 Siyam World (シヤム ワールド)

【立地】 ヌーヌ環礁 水上飛行機で国際空港から40分程度

【カテゴリー】 高級リゾート

【価格帯】 1,000ドル前後。

【部屋数】 470室

【利用客数】 トップシーズンの間にはおよそ2,300～3,000組の顧客が宿泊する。1月現在は70%-80%の稼働率である。

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 購買部長（スリランカ出身）と副料理長（インドネシア出身）

【リゾートの概要】

- Siyam Worldはモルディブ国内に5カ所ある、Sun Siyam（サンシヤム）グループのリゾートである。
- さまざまな部屋のタイプがあり、カップルから家族連れまで対応している。

【観光客の国籍】

- 旅行者はヨーロッパ、ロシア、インド、日本などシーズンによって異なるものの、20カ国以上からの顧客がいる。

【レストランの概要】

- ・ オールインクルーシブで 18 のレストラン・バーなどがある。多国籍料理、スペイン料理、モルディブ料理、タイ料理、グリル、ワインバー、プールバーなどがある。
- ・ 鉄板焼きレストランと、Arigatou というレストランがある。Arigatou ではすしなどを提供している。
- ・ 日本食レストランはヨーロッパからの顧客が多いが他の国からの客もいる。
- ・ ウェブサイトに掲載されている日本食はツナサラダ（41 ドル）、お好み焼き（43 ドル）、カリフォルニアロール（48 ドル）、牛丼（69 ドル）、和牛 250g（190 ドル）マグロの握り 2 貫（31 ドル）などである。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- ・ オールインクルーシブである

【食材の調達】

- ・ タイ、シンガポール、ドバイから購入している。マレで調達するものもある。ドバイが一番多い。
- ・ 品質はもちろん重要だが、価格も重要な要素の一つである。
- ・ **SiyamWorld** グループの五つのリゾートが共同で大量購入するものもある。そういったものは、本社でまとめて購入する。
- ・ マグロなどはローカルのもを購入しているが、刺身用のはまちなどは日本から輸入している。サーモンはノルウェー産のものをマレで調達することができる。鉄板焼き用のロブスターはローカルで調達している。
- ・ 現在はボートで空港に週に 2 回調達に行っている。通関事業者に通関してもらっている。
- ・ 顧客から食材がどこから来ているか聞かれるため、どこから来ているか把握しておきたいが、ドバイから来ていて説明が難しいものもある。
- ・ シェフがメニューを決め、調達係にリクエストを提出する。

【日本食材について】

- ・ 購入している日本食材はそれほど多くない。保存料無添加のしょうゆを輸入したい（購買部長より）
- ・ 海外製の日本食材は少し味が異なるため、日本で製造した日本食材を買いたい。
- ・ 特に中東の顧客は、ドバイでは世界中から集まる食材があるため、モルディブでも同様に、日本料理店では日本からの食材を期待する。そのため、日本から輸入したいと考えている。

【課題】

- ・ 日本からの輸入はロジスティックが課題である。特に航空郵送にかかる費用が課題となる。
- ・ 日本から食材を輸入する場合に、品質と鮮度を維持できるかが課題である。
- ・ オールインクルーシブであるため、価格と品質のバランスを取る必要がある。

【コメント】

- ・ もし日本から直接購入できる場合は検討したい。

⑥ Gili Lankafushi (ギリランカフシ) (オンラインヒアリング日：2024年2月27日)

基礎情報

- 【リゾート名】 Gili Lankafushi (ギリランカフシ)
- 【立地】 北マレ環礁 空港からスピードボートで20分程度
- 【カテゴリ】 高級リゾート
- 【価格帯】 1,000ドル~2,000ドル
- 【部屋数】 45室
- 【利用客数】 トップシーズンでも100人程度の小規模なリゾート

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 購買部長 (モルディブ出身)

【リゾートの概要】

- ・ 小規模なリゾートで各ヴィラにバトラーが付いている。顧客の要望に沿ってサービスを提供する。

【観光客の国籍】

- ・ 英国からの顧客がメインである。

【レストランの概要】

- ・ リゾート内にレストランは4つあり、そのうち日本料理は1つである。日本人の料理人がいる。
- ・ バトラーを通じてレストランを予約する。リゾート自体の規模が小さいのでレストランが満席で予約できないということはない。
- ・ 日本料理はすしの他に、海沿いの景色を見ながら鉄板焼きを楽しむことができる座席を追加した。
- ・ 各国の料理をテーマにした料理のイベントを開催している。
- ・ 英国の顧客がメインであるが、日本料理の人気もある。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- ・ オールインクルーシブのプランはなく、フルボード・ハーフボードのプランがある。

【食材の調達】

- ・ 食材に限らず90%のものをドバイから調達している。他にドイツやタイから購入しているものもある。
- ・ 週に2回(日曜日と水曜日)、食材調達のボートが空港に引き取りに行っている。
- ・ 食材の調達は品質に重点を置いている。
- ・ 水産物は主にスリランカのAmagiという会社から購入している。
- ・ 酒類は保税倉庫を持っているマレの企業から購入している。

【日本食材について】

- ・ 神戸牛はシンガポールから輸入している。
- ・ 現在調達している日本食材はドバイなどから再輸出されたものである。

- ・ 日本食の食材は、日本人のシェフがブランドまで指定して、調達のリクエストを購買部長にあげる。購買部長が調達先に連絡するが、シェフも送信先を含め、変更などがあつたときにはすぐに対応できる様になっている。

【課題】

- ・ 現在は日本からの食材を直接輸入できるベンダーがない。おそらく輸送費が高くなるのがネックになっていると考えられる。近隣のリゾートを含め、まとめて注文する形にできると良いと考えられる。マレの倉庫代は高いため、少量だと見合わないと考えられる。
- ・ 日本から食材を調達する場合には、在庫を持つことや・コストが課題となるが、信頼性の面では、日本食材に対する品質の信頼が高いため、直接調達できることのメリットがある。

【コメント】

- ・ ヤマハやマキタなどモルディブに代理店がある企業もあるが、可能であれば日本から直接機械部品などを購入したい。
- ・ 自社独自の ESG ガイドラインに従って調達を実施している。

⑦ **Hideaway (ハイダウェイ)** (調査票記入日 2024年1月30日)

基礎情報

- 【リゾート名】 Hideaway Bedach Resort & Spa (ハイダウェイビーチリゾートアンドスパ)
- 【立地】 ハーアリフ環礁 国内線で約 50 分・ボートで約 15 分
- 【カテゴリー】 高級リゾート
- 【価格帯】 客室：600～12,500 ドル (1 人、1 日)、レストラン：40～370 ドル (1 人)
- 【部屋数】 12 種類のタイプ・110 部屋
- 【利用客数】 2024 年 1 月で 6,835 人 (大人・子ども含め)

ヒアリング調査内容

- 【対応者】 予約営業部長 (ブラジル、インド、日本、韓国) (インド出身)

【観光客の国籍】

- ・ 上位 5 カ国・地域は、ロシア、中国、韓国、中東、ヨーロッパである。

【レストランの概要】

- ・ リゾート内にレストラン四つあり (マティファル (朝・夕食ブッフェ)、ミールバー&グリル、オアシス、サンセットプールカフェ、サムサラ)、そのうちサムサラで日本料理を提供している。
- ・ マティファル：朝夕食のブッフェレストラン。夕食は日替わりのテーマで、異なるメニューを提供している。ミールバー&グリル：メインプールサイドにあるアラカルトレストラン。ピザ窯で作るピザやスナックメニューやグリルメニューが人気。オアシス：ハイカテゴリー客室のゲストのみが利用できる、アラビアンスタイルのレストラン。サンセットプールカフェ：インフィニティプールサイドにあり、地中海料理などを提供して

いる。サムサラ：日本食を含むアジア料理を提供する。鉄板焼きグリルの目の前で食事ができる。

【平均滞在日数と宿泊プラン】

- ・ 平均予算は4泊、朝夕食付きで3,500～4,000ドル程度である。食事プラン（オールインクルーシブ）などにより予算が変わる。
- ・ 平均滞在日数は5泊程度である。アジア圏は4、5泊。ヨーロッパ、ロシア、CIS圏は10～14泊となっている。
- ・ 日本レストランのメニューの価格は25～149ドル
- ・ 国籍などに関わらず、鉄板焼きを提供するサムサラ自体が、特別な機会によく選ばれるレストランである。
- ・ ゲストから日本料理は良い評価を受けている、特に鉄板焼きメニューが好評である。
- ・ 日本人のゲストは、様々なテーマがあるbuffetを好む印象を受ける。

【食材の調達】

- ・ 決定者はエグゼクティブシェフ、オペレーションマネージャーなど。決定方法は、宿泊客の反応やリクエスト、実際の売上などからメニューを決定している。
- ・ モルディブの主要サプライヤーや他国のサプライヤーから調達しているが、詳細は非公開である。

【日本食材について】

- ・ 調達先は非公表。
- ・ 日本食材の強みは新鮮さと安定した質であり、弱みは距離が遠いため輸入コストがかかる。
- ・ 日本食材の調達量の増加については、日本人マーケットが増えた場合には検討する。

【課題】

- ・ 記入なし

【コメント】

- ・ リゾートとして、2024年は日本人マーケットの増加に取り組んでいる。

1.2.2. モルディブにおける高級レストラン

① The Somerset (ザサマセット) (ヒアリング日：2023年12月12日)

基礎情報

【レストラン名】 Belle Amie Bistro (ベラミビストロ)

【立地】 マレ市内

【カテゴリー】 シティホテル

【価格帯】 250ドル前後

【部屋数】 30部屋

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 総支配人 (スリランカ出身)

【ホテル・レストランの概要】

- ・ オーナーはモルディブ人の現地資本ホテルである。ホテル内の多国籍料理で一部すしなどを提供している。
- ・ 顧客はビジネスでマレに訪問している出張者、リゾートへ行く前後にマレに宿泊する旅行者である。割合としては出張者の方が多い。
- ・ ホテル内のレストランは、宿泊者以外にも現地駐在の日本人を含む外国人が多く訪問するため、国際的な料理を提供するレストランである。
- ・ 総支配人とシェフはスリランカ出身であり、過去に別の国で日本食を取り扱った経験はある。

【ゲストの国籍】

- ・ 宿泊者で多いのは欧米系である。レストランもマレ市内の欧米系の駐在員などが頻繁に訪問する。

【食材の調達について】

- ・ 多くの食材をドバイ、スリランカ、マレーシアから輸入している。モルディブ国内のサプライヤーから購入している。
- ・ 食材の輸入はMFDAのガイドラインにしたがって書類を整えておけば、スムーズに通関できるため、特に問題はない

【日本食材について】

- ・ 日本食材はまだ取り扱っていないが、すしや和牛の需要があることからメニューに取り入れたいと考えている。一方、信頼のおける日本食材を取り扱うサプライヤーを見つられていないことから、まだ取り扱いができないでいる。
- ・ 日本食に対するイメージは食材の品質の高さが求められるオーセンティックな料理というイメージである。
- ・ サプライヤーの選定の際に重要な点は、品質の面と安定した供給ができるかどうかである。

【課題】

- ・ 日本食品のサプライチェーンが構築されていないこと。信頼のおけるサプライヤーがいて、日本から直接輸入できるルートがあれば、購入するバイヤーは多いと考えられる。

【コメント】

- ・ 日本人観光客が増加すれば、日本料理の需要も増加する。
- ・ マレ市内では日本人が経営する日本料理を提供する店がないことから、もし日本人が日本料理店を開店し、その店で日本食材を直接輸入し、他のリゾートなどにも販売すると良いのではないか。
- ・ 食材以外にも例えば日本の調理器具や厨房機器などにも、興味がある。日本の包丁などは品質が高いと聞いている。



ホテル外観

② Nihonbashi Blue (日本ばしブルー) (訪問日: 2023年12月18日)

基礎情報

【レストラン名】 Nihonbashi Blue (日本ばしブルー)

【立地】 Cross road (クロスロード)

【カテゴリー】 高級レストラン

【価格帯】 細巻き 20ドル、握り (4貫) 20ドル、ラーメン 40ドル、お好み焼き 40ドル、すき焼き 110ドル/人~コース 180ドルなど

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 スタッフ (スリランカ出身)

【レストランの概要】

- スリランカにある日本食レストラン「日本ばし」の系列店であり、Crossroad というリゾート島にある。Crossroad には3つのリゾートがあるが、リゾート宿泊者以外がマレから日帰りで訪問できるエリアにレストランがある。他にも系列のレストランが Crossroad 内に2店舗ある。

【ゲストの国籍】

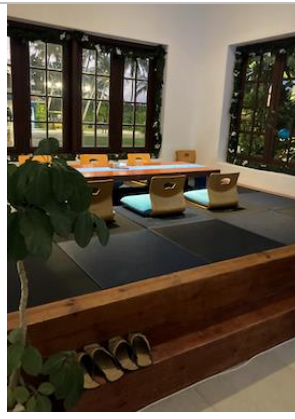
- マレから日帰りで訪問できるものの、主にクロスロードのリゾート内に宿泊しているゲストを対象としているため、多国籍である。

【食材の調達について】

- 日本から週2回、直接空輸している。
- マグロは現地調達だが、うなぎ、いくらなどは日本から輸入している。



鉄板焼き



座敷席



日本酒

③ **Sushi-Zu** (スシズ) (訪問日：2023年12月18日)

基礎情報

【レストラン名】 Sushi-zu (スシズ)

【立地】 マレ市内

【カテゴリー】 高級レストラン

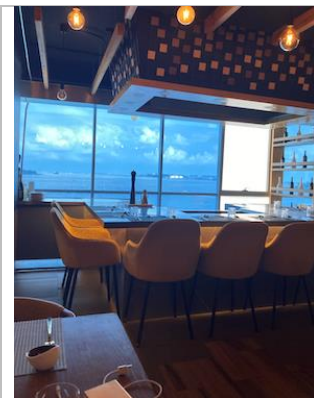
【価格帯】 枝豆 65MVR、餃子 130MVR、マグロ刺身 36MVR、巻物 160MVR、ラーメン 160MVR、焼き鳥 (砂肝) 150MVR

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 訪問時にシェフ (モルディブ人) がおらず、ヒアリングはできなかった。後日メール経由でも依頼したが、返信はなかった

【レストランの概要】

- ・ マレ市内の高級和食レストラン。
- ・ メニューには前菜からラーメン、寿司、刺身、鉄板焼きといった幅広い品揃えがあった。
- ・ 別途いただいた情報によると、ホタテの寿司と、鉄板焼きでホタテも提供している。スリランカから調達しているとのことであった (産地は不明)



鉄板焼きカウンター



焼き鳥



ホタテ寿司

④ Oishii (オイシイ) (訪問日: 2023年12月12日)

| | | |
|---|---|--|
| 基礎情報 | | |
| <p>【レストラン名】 Oishii (オイシイ)</p> <p>【立地】 マレ市内</p> <p>【カテゴリー】 高級レストラン</p> <p>【価格帯】 味噌汁 115MVR、枝豆 55MVR、餃子 155MVR、寿司盛り合わせ 175MVR、カリフォルニアロール 150MVR 等</p> | | |
| ヒアリング調査内容 | | |
| <p>【ヒアリング対応者】 スタッフ (モルディブ人)</p> <p>【レストランの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> マレ市内の中級～高級和食レストラン。 <p>【顧客の国籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問時は他に複数のモルディブ人と思われる顧客がいた。主に、カリフォルニアロールのような巻きずしが頼まれているようであった。 <p>【食材の調達】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に、モルディブ産の鮮魚を提供している。一部のサーモンなどはマレ市内のサプライヤーから購入している。 | | |
|  | |  |
| すし盛り合わせ | | すし盛り合わせ |
|  |  | |
| 外観 | 内観 | |

1.2.3. モルディブにおけるその他のレストラン

① Ramen House (ラーメンハウス) (訪問日：2023年12月16日)

| |
|--|
| 基礎情報 |
| <p>【レストラン名】 Ramen House (ラーメンハウス)</p> <p>【立地】 フルマレ</p> <p>【カテゴリー】 中級レストラン</p> <p>【価格帯】 ラーメン 105 ルフィア、餃子 95 ルフィア、寿司 185 ルフィアなど</p> |
| ヒアリング調査内容 |
| <p>【ヒアリング対応者】 オーナー (モルディブ人)、シェフ (フィリピン出身)、スタッフ (インド出身)</p> <p>【ホテル・レストランの概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンして3カ月程度 ・ インスタントラーメンを食べた息子のアイデアで開店 ・ フィリピン人のシェフ。米国で働いていた時に日本料理を学んだ。 ・ 麺もシェフが店舗で作っている ・ 最初は辛くないラーメンを提供していたが、モルディブ人の味覚に合わせるために、現在は辛くしている。 ・ 店員はインド出身。辛いのが好きで辛味調味料を作ることを担当している。 ・ ラーメンの味は韓国の辛いインスタントラーメンに近い味。 ・ オーナーはマレでリゾートに鉄・木材を卸す会社を経営している。 <p>【食材の調達について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食材はファンタジー (マレ市内の高級食材店) などで購入している。それぞれの食材の産地は気にしていない。 ・ 日本から直接購入することができれば検討することができる |



ラーメン



辛みペースト



メニュー

2. 対象観光地への商流・流通経路

2.1. 商流・流通経路

2.1.1. 商流の仕組み・流通経路

日本料理店で用いられる食材は、日本および海外で生産され、シンガポール・タイ・ドバイなどを経由してモルディブに送られる。モルディブに輸入された後も、輸入商社・ディストリビューターの倉庫に保管される場合と、直接リゾートの通関事業者によって通関処理をした後で、リゾートが手配するボートで倉庫を経由せずにリゾートに運ばれる場合がある。

日本から直接運搬されない理由としては、①航空便の直行便がないため、経由地を通らなければならない。②世界各国から少量多品目を運搬することになるため、経由地でまとめた方がコストを下げられるということが挙げられる。

各リゾートおよび輸入事業者へのヒアリングによると、通関書類は事前に税関に電子メールなどを通じて送ることができる。そのため、ルール上に規定されている書類を準備しておけば、空港に留め置かれることもなく、通関はスムーズである。



図7 日本食材の商流

(出所：ジェトロ作成)

2.2. 主要輸入業者、ディストリビューターの現状

モルディブには、リゾート向けに食品などを卸すリゾートサプライと、マレなどの住民島の店舗に卸す輸入商社の2種類のタイプがある。主要なディストリビューターは5。参考資料：付録にまとめる。

ディストリビューターからの日本食材についてのヒアリング結果は次のとおりである。

① Sarah International (サラインターナショナル) (ヒアリング日：2023年12月1日)

| 基礎情報 |
|---|
| <p>【会社名】 Sarah International, Vintners PVT LTD</p> <p>【立地】 マレ市内</p> <p>【カテゴリー】 日本食材の輸入・販売事業者</p> |
| ヒアリング調査内容 |
| <p>【ヒアリング対応者】 会長 (モルディブ出身)</p> <p>【会社の概要】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日本食品輸入・リゾートサプライ・酒類の輸入販売、ゲストハウス経営、旅行会社、商店などを複数の事業を手掛けているうちの一つの会社。・ モルディブにおいて日本から直接輸入している唯一の企業である。 <p>【取扱品目】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 酒類は世界中から輸入し、リゾートに販売している他、日本食材は主に和牛、うなぎ、エビなどを取り扱っている。ホタテも一部取り扱っている。・ 乾燥食品 (海苔、コメ、しょうゆ、ソース類、出汁類など約 35 品目) も輸入している。・ 一部の日本酒やマヨネーズ (日本メーカーの他国産) のモルディブ独占販売契約を締結している。・ マレに倉庫を保有しており、日本酒の温度管理などを徹底して行っている。・ 大量での一括輸入と少量輸入の両方に対応している。 <p>【日本食材について】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日本食のマーケットは高級セグメントに限られている。高級セグメントの多くのリゾートでは日本食を取り扱っている。・ 需要は年々増加してきていることを感じているが、日本からの旅行客が増加していないため、日本食レストランは増えていない印象である。日本食の需要を増加させるためには、日本人観光客を増やす必要がある。・ 多くのリゾートはドバイから食品を輸入している。欧米を含め、世界中からドバイに食品が集まるため、1カ所から複数の品目を輸入できることからリゾートにとって利便性が高いためである。・ 日本からドバイ・シンガポール・タイを経由して輸入されているものもある。日本から直接輸入した方が安い場合が多いが、品物の数と納期や購入の頻度を考えると経由した方が安いこともある。・ 日本食品については品質の高さの面で信頼がおかれている。水産品についても養殖の技術と品質管理の技術が高いことから、日本の食品は高品質である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 日本から直接輸入する場合には、需要が限定されるため、少量ずつ輸送する必要がある。輸送費用が高くつくことが課題としてあげられる。 |

- ・ モルディブへの輸入には、政府のガイドラインで英語のラベルを貼ることが義務付けられているが、対応している日本の企業が少ないことが課題である。一方で、日本語の表示の上に英語のシールがあった方が、日本で生産されたものであるという信用がある。
- ・ ハラル対応：一部の牛肉や水産品でハラル対応しているものもあるが、対応していないものも多い。
- ・ 日本国内の手続き：和牛については日本から輸出する国のリストにモルディブが載っていないことから、生産者側の日本国内の手続きが煩雑になることから、輸出に前向きでない生産者が多い。水産品についても日本の水産品の取扱いの許可を取得しなければならず、日本国内の輸出手続きが難しいことが課題となっている。

【コメント】

- ・ 上記の二国間合意や、日本国内の輸出手続きをスムーズにして欲しい。すでに在モルディブ日本国大使館などと連絡を取り合っている。
- ・ 水産品の取扱い許可を簡易にできれば、輸出はより拡大できると考えられる。

② **Standard Origin (スタンダードオリジン)** (ヒアリング日：2023年12月14日)

基礎情報

【会社名】 Standard Origin (SNO)

【立地】 マレ市内

【カテゴリー】 食材の輸入商社

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 販売マーケティング部長 (モルディブ出身)

【会社の概要】

- ・ 輸入元はオーストラリア、フランス、ブラジル、南アフリカ、トルコ、インド、スリランカなど多岐にわたる。
- ・ ISO にのっとって運営している。
- ・ マレに冷凍倉庫と冷凍トラックなどを所有している。
- ・ 各リゾートがドーニと呼ばれる貨物船を持っていて、週に何度かマレに物資を運びに来る。SNO の場合、マレ市内に倉庫を持っているため、倉庫からトラックで棧橋まで運び、ドーニに積み込み出荷する。

【取扱品目】

- ・ 肉類や冷凍食品、チーズ類などを世界各国から輸入し、リゾートおよびローカル市場に販売している。
- ・ 幅広い価格帯のものを取り扱っており、例えば牛肉であれば、インドから輸入したものはスタッフの食材、ブラジルから輸入したものは中級レストラン、和牛は高級レストランといったそれぞれの目的に応じ、販売している。
- ・ 現在ホタテはオマーンから、Wagyu をオーストラリアから輸入している。

【食材の調達について】

- ・ 一般的に、水産物は主にベトナム、インド、スリランカ、オマーン、中国、ノルウェーから輸入されている。

- ドバイ、シンガポールは世界中から多くのものが集まるため、大きな輸入元である。中国やベトナムは日本より少し近いため、日本より輸送コストが抑えられる。
- モルディブ産の牡蠣もあるが、いつもあるわけではないため、安定供給のためには輸入品も必要である。
- 近海で採れる生のロブスターもあり、リゾートによっては生簀を持っているところもある。インド、スリランカ、カナダなどから輸入されているものもある。

【日本食材について】

- コメ、マヨネーズ、麺、のり、しょうゆなどを輸入したいと考えている。
- 提供できる水産物のリストをもらえれば輸入を検討することができる。
- 日本食材の需要先は特定のリゾートなどに限られるため、量は多くないと考えられる。例えば、いろいろなものを合わせて10kg～20kg輸入する形になると考えられる。
- コメをメインに輸入したいと考えている。NISHIKIというコメのブランドが日本米として輸入されていて、有名である（ただし、日本産かどうかは不明）

【課題】

- 日本から直接一括で輸入できるルートがないこと。

【コメント】

- 中～高価格帯のものでも価格競争があるため、価格にシビアでなければならない

③ Bestbuy Maldives (ベストバイモルディブ)

基礎情報

【会社名】 Bestbuy Maldives (PVT) LTD

【立地】 マレ市内

【カテゴリー】 商社

ヒアリング調査内容

【ヒアリング対応者】 会長 (モルディブ出身)

【会社の概要】

- ・ ユニリーバーなど 30 以上の国際的ブランドを代理店として、モルディブ全土で販売している。

【日本食材について】

- ・ 会長自身は日本食が好きであるが、日本食は価格も含め、限られた人にしか受け入れられないため、マーケットは大きくない。
- ・ 日本食材のポテンシャルもそれほど大きくないと考えている。(彼が取り扱っている他の商品と比較して)

2.3. コールドチェーンの実態

2.3.1. 主要な港湾、空港

2.3.1.1. 主要な港湾

モルディブには 6 カ所の主要な港があり、国営企業である Maldives Port Limited (MPL) によって運営されている²⁶。

① マレ商業港 (Male Commercial Harbor)

マレ商業港はモルディブの海運と商業の中心地である。マレ商業港はモルディブの海運と商業の中心地であり、水先案内人サービス、埠頭業務、係留業務、在来貨物やコンテナ貨物の取り扱い、荷物の積み下ろしサービスなどを提供している。港全体の面積は 5.6 ヘクタールで、バースは 101 メートル、平均喫水は 10.8 メートル。コンテナ・ヤードは 1500TEU、通関 (CFS) 能力は 220TEU である。本港はまた、他の地域の港やターミナルへの積み替えサービスという重要な機能も持っている。

② ヒタドゥ地域港 (Hithadhoo regional port)

アッドゥ環礁に位置するヒタドゥ地域港は、2009 年に操業を開始した、MPL が開発した 2 番目の港で、国営企業であるヒタドゥポートルミテッドが 100% 所有している。本港

²⁶ <https://port.mv/ports/mch/>

は、南部地域におけるコンテナ貨物、一般貨物の主要な流通拠点である。十分な施設を備えたこの港は、この地域に設立された企業や産業向けの商業貨物処理や保管関連サービスを促進している。

③ クルドゥフシ地域港 (Kulhudhufushi Regional Port)

クルドゥフシ地域港は 2005 年に操業を開始した。本港は、北部の経済都市としても知られるクルドゥフシ島に位置している。この港は、北部地域内の国内、島間海上貿易、流通活動を管理するハブとしての役割を担っており、首都マレから北部地域への物資輸送や商取引のサポートにおいて重要な役割を果たしている。

④ フルマレ国際ターミナル (Hulhumale International Terminal)

国際船舶及び港湾施設保安基準 (ISPS) に完全に準拠したターミナル設備からなる MPL の戦略的ベンチャー企業である。このターミナルは、マレ商業港におけるコンテナの混雑を防ぎ貨物のスムーズな流れを維持する上で、重要な役割を果たしている。現在フルマレ島で開発中の都市開発や住宅プロジェクトによる経済活動や成長に対応する上で重要な役割を果たしている。

⑤ マレ北部港 (Male North Harbour)

環礁から貨物や旅客を運ぶ船舶 (ドーニ) のための国内線埠頭である。この港は同時に 30~37 隻の船を収容することができる。

⑥ マレ南西港 (Male Southwest Harbor)

サプライチェーンネットワークのためのより良いサービスを提供するために、2015 年に政府によって MPL の下に移管された。

2.3.1.2. 主要な空港

モルディブには Velana International Airport (ヴェラナ国際空港) をはじめとして、以下の 4 カ所の主要な国際空港がある。モルディブの国営航空会社である Maldivian は 16 カ所の国内の空港に運行している。

① ヴェラナ国際空港 (Velana International Airport)

首都マレの空港であり、モルディブの最大の空港である。2024 年 1 月 16 日にヴェラナ国際空港の開発プロジェクトの一環で、新しい貨物ターミナルが建設され、開業式が行われた。この貨物ターミナルは、以前の施設と比較して 3 倍の貨物に対応できる能力を持つ。同様に、新貨物ターミナルの建設により、5 万トンだった旧ターミナルの貨物処理能力は、年間合計 12 万トンに増加する。

この新貨物ターミナルでは、環境に優しい車両といった、最新の設備を装備している。航空会社等のための 55 のオフィススペースを備えた 3 階建てのオフィスビルも新貨物ターミナルに設立された。

② ガン国際空港 (Gan International Airport)

ガンはアッドゥ環礁の最南端の島であり、モルディブの最南端の島でもある。モルディブの中では比較的大きい島である。

③ ハニマドゥ国際空港 (Hanimaadho International Airport)

ハニマドゥはモルディブ北部のハア・ダール環礁行政区画の有人島のひとつであり、ハニマドゥ空港はモルディブ最北端の空港である。2013 年 2 月 3 日にハニマドゥからトリバンドラムへの便が就航し、現在はモルディブの国際空港となっている。

④ マアファルー国際空港 (Maafaru International Airport)

マアファルーはモルディブの北東部ヌーヌ環礁の島のひとつ。ヌーヌ環礁はミラドゥンマドゥル環礁の南部に位置するモルディブの行政区分である。マアファルー国際空港は高級リゾートの多いこの地域の需要に応えるために開港され、2019 年 12 月から商業便が運航を開始した。

2.3.2. 温度管理施設の状況

マレの商業港には、リーファーコンテナ用のプラグポイントが 80 カ所設置されている。そのほかに、民間の温度管理施設は国内に 28 カ所あるとされている。また、ヴェラナ国際空港は、2018 年に冷蔵施設の追加エリアが追加され 266 トン収容できるように拡張された。

国内の漁業者向けの製氷施設は、モルディブ漁業海洋資源農業省によって整備されており、25 カ所の製氷設備がある²⁷。国営企業である、モルディブ産業漁業会社 (MIFCO) は、7 カ所の製氷設備を運営している。

²⁷ 「モルディブ国持続的漁業のための水産セクターマスタープラン策定プロジェクトファイナルレポート」(2018 年) 独立行政法人国際協力機構(JICA)、インテムコンサルティング株式会社、株式会社国際水産技術開発

2.3.3. コールドチェーン物流の実態

リゾートなどに対するヒアリングでは、海外からモルディブに輸入される冷凍食材や生鮮食材は冷蔵・冷凍設備付きのコンテナなどで運搬され、空港や港に到着後はリゾートの冷蔵・冷凍設備付きボートで直接引き取りに行くため、現地で運搬する上で特に課題はないとのことであった。通関手続きも書類を事前に提出しておくことによりスムーズに処理できるため、港湾での保管時の温度管理の問題も特に聞かれなかった。

3. まとめと考察

3.1. 日本産水産物・食品の輸出可能性

① 調査のまとめ

・ 訪問先

今回の調査でヒアリングを行った先は、次のとおりである。リゾートへの訪問は、現地協力者を通じて行ったが、トップシーズン（クリスマス～新年）の直前ということもあり、アポイントの取得が困難であった。また、リゾートへ訪問する際は、リゾートがスタッフ用のボートや水上飛行機の席を提供してくれたが、スタッフの空き状況によるため、日程および時間帯が直前まで決められず、1日1件のアポイントのみとなった。そのため、直接訪問できなかった先には、オンラインヒアリングおよび記入方式による調査を行った。

| | |
|-------|--|
| リゾート | Four Seasons, Anantara, Westin, Cora Cora Resort, Siyam World, Hideaway, Gili Lankafushi |
| ホテル | The somerset |
| レストラン | Nihonbashi Blue, Ramen House, Oishii- The House of Sushi |
| 商社 | Sarah Internationa, Standard Origin, Best buy |
| 店舗 | STO, Black gold, WHIM, De Essense, Little fino, Fantasy |
| その他 | 在モルディブ日本大使館、ローカルマーケット |

② 顧客の要望

ホテル・リゾートへのヒアリングの結果、現在多くの日本食材はドバイ・シンガポール・タイなどの第三国を経由してモルディブに輸入されていることがわかった。ただし、ドバイ経由で入手可能な食材は限られており、日本から直接輸入することによる、品目の拡大などが求められていることがわかった。また長期間冷凍することによりどうしても鮮度が落ちてしまうことから、鮮度を維持する技術も求められている。

水産物以外の食品についても、複数のリゾートから日本から直接輸入することに対する要望があった。理由としては、現在第三国から輸入されている食材は、日本産以外のものが多く、どうしても日本食として提供する際に味が変わってしまうためである。例えば、東南アジアなどで生産される醤油・マヨネーズは、日本産のものやや味が異なる。また、英語のラベルは必要であるものの、日本語で書いてあるパッケージは、日本産であるということ的印象付けるため、人気である。このことから、日本産の食材の輸出に対する要望がある。また、質が高いと認識されている日本産の和牛やコメについても、輸入の要望があった。

③ モルディブ側の輸入規制

ヒアリングの際に輸入事業者やリゾートから聞かれた限りでは、モルディブに輸入する際には英語ラベル、食品安全書類があれば、特に税関で止められることはないとのことであった。ガイドラインで決められている内容を守っている限り、輸入はスムーズであるとのことであった。そのため、リゾートへの輸出に関しては、輸入規制が日本水産物・食品の輸出の障害となることはなさそうである。

④ モルディブ食品市場の印象

モルディブの食品市場を大きく分けると、ローカル市場とリゾート市場に分けられる。今回はローカル市場としては、マレとフルマレのみの訪問であったが、リゾートのみならずローカル市場においても、日本での販売価格と比較すると、すべてにおいて物価が高い印象であった。また、あらゆるものが輸入されているため、国産品との競合がほとんど見られず、日本で販売されている輸入品のように「輸入品だから高い」ということがなく、円安に伴い相対的に物価が安くなっている日本の商品は競争力が高いのではないかと感じた。

3.2. 輸出拡大のためのポイント

① 現在日本から輸入されていない理由

現在日本から輸入されていない理由として一番先に挙げられるのが、日本から直接購入できる輸入者がいないことである。また、日本から直接購入できる輸入者がいたとしても、ドバイなどの第三国に集まったものをまとめて輸入できることから、一括で購入できる利便性があるため、直接購入しないだろうという意見も聞かれた。

輸入者がいない理由として挙げられるのは、ロジスティック面のハードルが高いことである。日本からモルディブは飛行機の直行便がないため、発注してから到着するまでに時差が発生してしまう。また、質の高い刺身など生鮮品を日本から直接購入する可能性があるのは、食材の価格より品質にこだわる高級セグメントに属するホテルに限られるため、大手の商社が展開する規模が望めないことも挙げられる。さらに、全般的に商品も少量多種であることから、日本から運ぶよりドバイから各国から集まったものも含めて、一括で大量にモルディブに輸入でき

る商社に利点がある。上記の他に、首都マレや隣のフルマレは不動産賃料が高騰しており、倉庫を借りるコストが高いことも挙げられる。

② 二国間での輸出条件の取り決め

すでに日本から和牛や水産物を輸入している企業からのヒアリングの際、日本産の和牛と水産物の輸入に関する規制の全体像が分からないため、輸出に取り組みづらいと言う意見が聞かれた。和牛は、日本から輸出される家畜・畜産物の受入れについてモルディブとの二国間の輸出条件が設定されていないため、個別の相談が必要となり、輸出事業者の手間も増えることから、輸出が解禁されている国々と比較して、必ずしもモルディブへの輸出に積極的でない生産者が多いとのことであった。

③ 輸出拡大方法

・ ターゲット

モルディブへの日本食材の輸出の主なターゲットは高級リゾートである。日本食は主に高級セグメントに属するリゾートで提供されているため、品質が高いものが求められる傾向にある。ニーズがある品目は、ブランド牛や刺身用の魚などの生鮮食品および海苔・コメ・調味料・酒などの商品に分類される。生鮮食品は商品自体の質に加え、品質管理による鮮度が求められる一方、その他の商品は日本産であること自体が商品の信頼となっている。

・ マーケティング方法：

【展示会の活用】

モルディブでは主に年に2回 **Food and Hospitality Asia** という展示会と、**Hotel Asia** というリゾート・ホテル向けの展示会が開催されている。これらの展示会では、ホテル向けの商品・サービスの提供を行う事業者が出展し、リゾート・ホテルなどの購買関係の担当者が主な来場者となっている。こういった展示会を活用し、日本食材のプロモーションを行うことは、日本食材に対する認知を高める上で有効であると考えられる。

【価格】

高級セグメントのリゾート・ホテルは価格より品質を重視しており、品質が高ければ競争力を持つことができるため、商品の価格自体を低くする必要はない。一方、輸送費のコストは既存の仕入れ先と比較されるため、複数の配送先・品目を同時に配送するなどといった、効率的な輸送方法によりできる限り削減することが必要である。

・ 販売ルート

日本からの商品展開において一番の課題となるのが販売ルートである。①既存のモルディブの商社への販売、②ドバイや海外の商社への販売、③日本から直接販売できるルートを構

築する、などが考えられる。ヒアリングでは、③日本からの直接販売のルートが信頼性の面や、間に入る事業者のコミッションを削減するために求められているようであった。

- ・ 展開方針

前記のとおり、現状の課題は日本から直接輸入する輸入者がいないことにより日本の食材を直接モルディブに販売できていないことである。理由としては、直行便がないこと、および倉庫の費用が高いため、コストがかかってしまうためであると考えられる。日本の商品の販売ルートを拡大するためには、まず商社として既存のモルディブの商社と提携し、日本食材の販売先を拡大した上で、直接販売するための展開を進めることが考えられる。また、温度管理が必要な生鮮食品は倉庫などへの投資コストが高くなるため、ドライ食品から開始し、顧客のニーズに合わせて商品を拡大することが考えられる。

3.3. 留意点

モルディブで事業を展開するためには、現地の会社設立が必要となるが、会社の設立および運営にあたっては、モルディブ会社法（The Companies Act of the Republic of Maldives (Act No: 10/96)）に準拠することとなる。特に、建設資材以外の業種の卸売業、小売業(Retail trade)、物流業、飲食サービス業(カフェ、レストラン、ベーカリー、その他飲食店含む)等外国投資が禁止されている分野については留意が必要である。

4. 参考資料：モルディブにおける日本産水産物・食品の輸入規制

4.1. 品目の定義

モルディブのHSコードでは、大項目の「03.カニ、ムール貝、ロブスター、エビ、魚類、水生無脊椎動物」および「肉類、魚類または甲殻類、軟体動物その他の水棲無脊椎動物の調製品」のカテゴリーに品目が定められている。その他の項目も含め、詳細は、税関のウェブサイト (<https://www.customs.gov.mv>) の検索欄にカテゴリーを入力して確認することができる。

以下に本調査で対象となっている、ホタテ、カキ、マグロ、ナマコ、クラゲ、海藻の品目のHSコードを示す。

| HSコード | 品目 |
|------------|---|
| 0307211000 | SCALLOPS OF THE FAMILY PECTINIDAE (LIVE) |
| 0307219000 | SCALLOPS AND OTHER MOLLUSCS OF THE FAMILY PECTINIDAE (FRESH OR CHILLED) |

| | |
|------------|--|
| 0307290000 | SCALLOPS OF THE FAMILY PECTINIDAE (FROZEN) |
| 0307290000 | OTHER SCALLOPS OF THE FAMILY PECTINIDAE (EXCLUDING LIVE, FRESH OR CHILLED, FROZEN) |
| 1605520000 | SCALLOPS, INCLUDING QUEEN SCALLOPS (PREPARED, PRESERVED) |
| 0307111000 | OYSTER (LIVE) |
| 0307119000 | OYSTER (FRESH OR CHILLED) |
| 0307120000 | OYSTERS (FROZEN) |
| 0307190000 | OYSTER (FROZEN, DRIED, SALTED OR IN BRINE) |
| 1605510000 | OYSTERS (PREPARED, PRESERVED) |
| 0301940000 | LIVE ATLANTIC AND PACIFIC BLUEFIN TUNAS (THUNNAS THYNNUS, THUNNUS ORIENTALIS) |
| 0302310000 | TUNA (FRESH OR CHILLED) LONGFINNED (THUNNUS ALALUNGA) |
| 0302320000 | YELLOWFIN TUNA (THUNNUS ALBACARES)(FRESH OR CHILLED) |
| 0302330000 | FRESH OR CHILLED SKIPJACK TUNA (STRIPE-BELLIED BONITO) (KATSUWONUS PELAMIS) |
| 0302340000 | BIGEYE TUNA (FRESH OR CHILLED) (THUNNUS OBESUS) |
| 0302350000 | ATLANTIC AND PACIFIC BLUEFIN TUNA (FRESH OR CHILLED) |
| 0302360000 | SOUTHERN BLUEFIN TUNA (FRESH OR CHILLED) (THUNNUS MACCOYII) |
| 0302390000 | OTHER TUNA (FRESH OR CHILLED) NOT SPECIFIED |
| 0302991000 | OTHER FRESH OR CHILLED EDIBLE FISH OFFAL OF TUNA NES |
| 0303410000 | TUNA (FROZEN) LONGFINNED (THUNNUS ALALUNGA) |
| 0303420000 | YELLOWFIN TUNA (FROZEN) (THUNNUS ALABACARES) |
| 0303430000 | FROZEN SKIPJACK TUNA (STRIPE-BELLIED BONITO) (KATSUWONUS PELAMIS) |
| 0303440000 | BIGEYE TUNA (FROZEN) (THUNNUS OBESUS) |
| 0303450000 | ATLANTIC AND PACIFIC BLUEFIN TUNAS (FROZEN) |
| 0303460000 | SOUTHERN BLUEFIN TUNA (FROZEN) (THUNNUS MACCOYII) |

| | |
|------------|---|
| 0303490000 | OTHER FROZEN TUNA, NES |
| 0303991000 | OTHER FROZEN EDIBLE FISH OFFAL OF TUNA NES |
| | YELLOWFIN TUNA HEAD (FROZEN) (THUNNUS ALABACARES) |
| | YELLOWFIN TUNA SKIN EDIBLE (FROZEN) (THUNNUS ALABACARES) |
| 0303991000 | BIGEYE TUNA HEAD (FROZEN) (THUNNUS OBESUS) |
| 0304491011 | YELLOWFIN TUNA FILLET (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491012 | LONGFINNED TUNA FILLET (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491013 | YELLOWFIN TUNA LOINS (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491014 | LONGFINNED TUNA LOIN (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491017 | BIGEYE TUNA LOINS (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491019 | YELLOWFIN TUNA CHUNK (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491021 | YELLOWFIN TUNA STEAK (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491022 | BIGEYE TUNA FILLETS (FRESH OR CHILLED) |
| 0304491099 | TUNA FILLETS (FRESH OR CHILLED), NES |
| | TUNA LOINS (FRESH OR CHILLED), NES |
| 0304499099 | FISH FILLETS (FRESH OR CHILLED) OTHER THAN TUNA |
| 0304591010 | TUNA BELLY FLAP (FRESH OR CHILLED) |
| 0304591012 | BELLY FLAP (BIGEYE TUNA) FRESH OR CHILLED |
| 0304591013 | BELLY FLAP (YELLOWFIN TUNA) FRESH OR CHILLED |
| 0304591014 | TUNA HEART |
| 0304591099 | BIGEYE TUNA (MINCED) FRESH OR CHILLED |
| | OTHER TUNA (FRESH OR CHILLED) FISH MEAT OTHER THAN FILLETS, NES |
| | MINCED YELLOWFIN TUNA (FRESH OR CHILLED) |

| | |
|------------|--|
| 0304599000 | OTHER FRESH OR CHILLED FISH MEAT OTHER THAN FILLETS, EXCLUDING TUNA |
| 0304870010 | FROZEN FILLETS OF SKIPJACK TUNA (STRIPE-BELLIED BONITO) (KATSUWONUS PELAMIS) |
| 0304870011 | YELLOWFIN TUNA FILET (FROZEN) |
| 0304870012 | YELLOWFIN TUNA LOIN (FROZEN) |
| 0304870015 | YELLOWFIN TUNA STEAK (FROZEN) |
| 0304870016 | YELLOWFIN TUNA CHUNK (FROZEN) |
| 0304870017 | LONGFINED TUNA FILLET (FROZEN) |
| 0304870018 | BIGEYE TUNA LOIN (FROZEN) |
| 0304870019 | FROZEN LOINS OF SKIPJACK TUNA (STRIPE-BELLIED BONITO) (KATSUWONUS PELAMIS) |
| 0304870020 | FRESH OR CHILLED FILLETS OF TUNAS (CARBON MONOXIDE (CO) TREATED) |
| 0304870099 | OTHER FROZEN FISH FILLETS AND MEATS OF TUNAS, NES |
| 0304991010 | FROZEN FISH MEAT OF TUNAS (CARBON MONOXIDE (CO) TREATED) |
| 0304991099 | BELLY FLAP (BIGEYE TUNA) FROZEN |
| | BELLY FLAP (YELLOWFIN TUNA) FROZEN |
| | FROZEN FISH MEAT OF TUNAS, NES |
| | CHEEK MEAT OF TUNA (FROZEN) |
| | FROZEN FISH MEAT OF TUNAS, NES |
| 0305391012 | YELLOWFIN TUNA LOIN(DRIED,SALTED,IN BRINE) BUT NOT SMOKED |
| 0305391015 | BIGEYE TUNA LOINS (SALTED, DRIED) |
| 0305391099 | TUNA FILLET (DRIED, SALTED, IN BRINE BUT NOT SMOKED), NES |
| 0305491012 | YELLOWFIN TUNA FILLET (SMOKED) |
| 0305491013 | FISH CHIPS (SKIPJACK, TUNA) SMOKED |
| 0305491014 | BIGEYE TUNA FILLET (SMOKED) |

| | |
|------------|--|
| 0305491099 | TUNA (SMOKED) NES |
| 0305591010 | SKIPJACK TUNA (DRIED) MALDIVE FISH |
| 0305591013 | BELLY FLAP (TUNA) SALTED, DRIED |
| 0305591014 | BELLY FLAP (YELLOWFIN TUNA) SALTED, DRIED |
| 0305591016 | SKIPJACK TUNA BELLY FLAP (DRIED, SALTED IN BRINE) |
| 0305591017 | BELLY FLAP (BIGEYE TUNA) SALTED, DRIED |
| 0305591018 | YELLOWFIN TUNA (SALTED, DRIED) |
| 0305591019 | BIGEYE TUNA (SALTED, DRIED) |
| 0305591020 | FISH CHIPS (SKIPJACK TUNA) DRIED |
| 0305591021 | DOG TOOTH TUNA (SALTED DRIED) ""KERAWALLA"" (VOSHI MAS) |
| 0305591099 | TUNA (DRIED, SALTED OR IN BRINE), NES |
| 0305691010 | TUNA (SALTED, IN BRINE) NOT DRIED OR SMOKED |
| 1604140010 | OTHER TUNAS AND BONITO (SARDA SPP.) (PREPARED OR PRESERVED), NES |
| 1604140012 | LOINS OF TUNAS AND BONITO (SARDA SPP.) (STEAMED) |
| 1604140013 | SKIPJACK TUNA LOINS (STEAMED) |
| 1604201000 | OTHER PREPARED OR PRESERVED TUNA (OTHER THAN FISH IN WHOLE OR IN PIECES), NES TUNA SAUSAGES |
| 0308111000 | SEA CUCUMBER (LIVE) |
| 0308119000 | SEA CUCUMBER (FRESH OR CHILLED) |
| 0308120000 | SEA CUCUMBER (FROZEN) |
| 0308190010 | SEA CUCUMBER (FROZEN,SMOKED, SALTED OR IN BRINE) |
| 0308190011 | SEA CUCUMBER (DRIED) |
| 1605610000 | SEA CUCUMBERS (PREPARED, PRESERVED) |

| | |
|------------|---|
| 0308301000 | JELLYFISH (LIVE) |
| 0308309000 | JELLYFISH (EXCL,LIVE) |
| 1605630000 | JELLYFISH (PREPARED, PRESERVED) |
| 1212210010 | FUERU WAKAME SEAWEED (FRESH, DRIED OR FROZEN) |
| | JAPANESE SEAWEED (FRESH, DRIED OR FROZEN) |
| | SUSHI NORI SEAWEED(FRESH, DRIED OR FROZEN) |

4.2. 輸入規制

モルディブの主な輸出入に関する法規制は、次のとおりである。

| | |
|-----|--|
| 法律 | <ul style="list-style-type: none"> ・ モルディブ法第4号1975年（輸入禁止法） ・ 輸出入法（Export Import act of Maldives）31/79 第18改正版 ・ 関税法（2011年8月） ・ 港湾衛生法（76/78） |
| 規則 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 税関一般規則 ・ 輸出入及び再輸出に関する規制（経済開発省） ・ 植物検疫規則 |
| 手続き | <ul style="list-style-type: none"> ・ 完全なコマーシャルインボイスとパッキングリストの提出に関する回覧 ・ 荷受人名変更手続き ・ 事前裁定手続き |

4.2.1. 輸入禁止（停止）、制限品目（放射性物質規制等）

モルディブ税関のウェブサイトによると次のとおりである²⁸。

【輸入禁止品目】

- ・ 麻薬および向精神薬
- ・ 書籍、雑誌、映画、ビデオ、DVD、ソフトウェアなどのポルノ資料
- ・ イスラム教を侮辱する宗教的コンテンツ
- ・ 生きた豚
- ・ 偶像（礼拝用）

【制限品目】

- ・ 酒類及びアルコール製品
- モルディブ法第4号1975年（輸入禁止法）によると、事前の承認のない酒類およびアルコール製品の輸入は禁止されている。
- モルディブに向かう途中、機内や免税店で購入された酒類やアルコールは空港到着時に没収される。ただし、酒やビールなどのアルコール飲料は、すべての観光地・ホテル輸入前に発行された特別なライセンスに基づいて輸入されている。

- ・ 豚肉とその副産物
モルディブ法第4号1975年（輸入禁止法）によると、事前の承認なしに豚肉とその副産物を輸入することは禁止されている。
- ・ 化学薬品と化学製品
- ・ ペット

動物が感染症や伝染病にかかっていないことを証明する認定獣医師の健康証明書（Health Certificate）が必要。

犬および危険動物の輸入は固く禁止されている。

- ・ 銃器/爆発物/武器及び弾薬
- ・ 生きた植物と動物

すべての植物には有効な植物検疫/衛生証明書が必要であり、漁業農業省による検査と承認が必要である。

- ・ 薬

規制薬物の輸入には登録医師が発行した有効な処方箋が必要（個人使用のみ）。

- ・ タバコ及びタバコ製品
- ・ 通信機器

²⁸ <https://www.customs.gov.mv/Business/Importers/import-prohibited-restricted-items>

【特別な許可が必要なもの】

以下の商品を輸入する場合は、次の地元当局から許可を取得する必要がある。

| カテゴリー | 地元当局 |
|----------------|---|
| 酒類およびアルコール製品 | 経済開発省からの事前許可が必要 |
| 豚肉とその副産物 | 経済開発省からの事前許可が必要 |
| 化学薬品および化学製品 | 国防省・国家安全保障省からの事前許可が必要 |
| ペット | 認定獣医師からの健康証明書 |
| 銃器/爆発物/武器および弾薬 | 国防省・国家安全保障省からの事前許可が必要です |
| 生きた植物と動物 | 漁業農業省からの有効な植物検疫/衛生証明書 |
| 薬 | 個人使用の場合: 有効な処方箋 商業使用の場合: モルディブ食品医薬品局からの事前許可が必要 |
| タバコおよびタバコ製品 | すべてのタバコ製品には、保健省の規定に従って健康警告ラベルを貼らなければならない。注: 全ての訪問者はタバコ 200 本、葉巻 25 本、タバコ 250g を上限に輸入関税を免除される。 |
| 通信機器 | トーカーセット、受信機、および 100 ミリワットを超える無線周波数送信容量を備えたその他の電気通信機器は、モルディブ通信局によって検査および承認される必要がある。 |
| 代替フロン | 環境エネルギー省の許可が必要 |
| 鮮魚と冷凍肉 | 港湾衛生管理局の許可が必要 |
| 鳥類 | 漁業農業省の輸入許可が必要 |
| 農薬と肥料 | 漁業・農業省および国防・国家安全保障省の許可が必要 |
| 乗り物 | 運輸省の許可が必要 |

4.2.2. 施設登録、輸出事業者登録、輸出に必要な書類等（輸出者側でに必要な手続き）

【輸出時に必要な書類】

- 事前評価フォーム (http://asycuda.customs.gov.mv/download/fillable_prevaluation.pdf)
- 商業送り状 (Commercial Invoice)
- 包装内容明細書 (Packing List)

- 船荷証券、航空運送状、または宅配便運送状 (Bill of lading, Airway bill or Courier waybill)
- 事前評価フォームに記載された買主と売主が負担する費用を記載した書類
- 保険対象商品に対する保険証券
- 商品を通関港に持ち込むために発生したすべての費用を記載した書類
- 商品代金の支払い内容または支払い方法を記載した書類
- プロフォーマインボイスまたは発注書
- 買い手と売り手の間で書面で締結された合意
- 予備品、コンポーネント、機械の価格が総額で示されている場合の、価格の項目別リスト
- 輸入品が自動二輪車および自動二輪車以外の事前登録車両の場合、抹消登録証明書の本
- 輸入品が船舶の場合、[「船舶用追加情報シート」](#)
- 特恵税率を申請する場合、原産地証明書の原本

4.2.3. 動植物検疫の有無

FAO (国際連合食糧農業機関) の [FAOLEX Database](#)²⁹ (各国法令、国際条約並びに食料、農業、再生可能エネルギー及び天然資源のデータベース) 上に、モルディブの **Plant Quarantine Regulation** (植物検疫規則) が掲載されている。

本規則は、植物に影響を及ぼす病気の蔓延を防ぐため、モルディブに輸入またはモルディブから輸出される植物、植物の一部、植物製品、木材、害虫の検疫について規定している。同規則では、植物、植物の一部、木材、商品の梱包に使用される木材パレットなどの輸出入方法を規定し、植物検疫証明書の所持を義務付けている。同規則ではさらに、条文に明記されている場合を除き、昆虫、微生物、バクテリアの輸入を禁止し、特定の植物および植物の一部の輸入を禁止している。同規則では、検疫のために保管される品目、検査措置、動植物検疫ユニットの権限と義務、犯罪などについても定めている。

4.2.4. 食品関連の規制

食品関連の主な法規制は以下のとおりである。

| | |
|------|--|
| 法律 | ・ 港湾衛生法 (76/78) |
| 規則 | ・ モルディブにおける母乳代用品の輸入・生産・販売規制 (MFDA-FS/R1:2008) |
| 運用規則 | ・ 食品輸入衛生許可標準業務手順書 ((FCD/BC-BI/SOP-QP001 - 5th Amendment) |

²⁹国際連合食糧農業機関 <https://www.fao.org/faolex/results/details/en/c/LEX-FAOC088996>

| | |
|-------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 包装食品の表示に関する国家基準 (MFDA-FCSTAN 4-2014 (Rev. 1-2016)) 食品施設およびサービスに関する一般規定 (2007/182/FS1) |
| 政策・方針 | <ul style="list-style-type: none"> 国家食品安全政策 (2017年～2026年) |

4.2.5. 食品規格

生鮮食品と一次加工製品の安全性は、モルディブ食品医薬品局 (MFDA)、保険庁 (HPA)、漁業農業省 (MOFA)、モルディブ税関 (MCS)、経済開発省 (MED) によって管理されている。海港や空港でモルディブに輸入される生鮮食品の安全性は HPA の国際国境衛生ユニットによって管理されており、2015 年 11 月以降、輸入食品の検査は MFDA の責任下にある。しかし検査は、特定の食品に必要な衛生証明書、獣医師健康証明書、ハラール証明書、原産地証明書などの書類のみに基づいて行われる。温度チェックや目視など、物理的な検査は最小限にとどめられている。生鮮食品については、苦情があった場合を除き、検査室での分析のためのサンプリングは行われていない。国際国境衛生ユニットはまた、MFDA の「保管中の製品の食品安全および品質維持のための基準」に記載されている食品保管条件および施設に関する基準およびガイドラインに従って、空港および海上貨物の冷蔵倉庫の衛生および温度の監視を担当している。MCS はまた、通関手続きの一環として検査も行う。MFDA は、食品貿易に関する規制について MED と連携している。³⁰

4.2.6. 残留農薬

地産地消の生鮮食品をモニタリングするための既存の基準やシステムは存在しない。残留農薬モニタリングシステムも、農産物中の残留農薬を分析する研究所の能力も不足している。新鮮な果物や野菜の国内消費の増加に対応するため、農業生産と販売が商業化されており、残留物や汚染物質 (生物学的、化学的、物理的) の適切なモニタリングが求められている。農薬の輸入が増加していることは、モルディブにおける農業生産の拡大や強化を反映している可能性がある。残留農薬モニタリングシステム、生鮮食品・加工食品の検査および試験の欠如は、食品の品質と安全性に悪影響を及ぼす。国家食品安全政策 (2017 年～2026 年) の中に、2026 年までに残留農薬モニタリングシステムを制度化することが盛り込まれている。

4.2.7. 重金属および汚染物質

前記残留農薬と同様に既存のシステムは存在しない。国家食品安全政策 (2017 年～2026 年) の中に、2026 年までにモニタリングシステムを制度化することが盛り込まれている。

³⁰モルディブ国家食品安全政策 2017-2026

4.2.8. 食品添加物

前記残留農薬と同様に既存のシステムは存在しない。国家食品安全政策（2017年～2026年）の中に、2026年までにモニタリングシステムを制度化することが盛り込まれている。

4.2.9. 食品包装（食品容器の品質または基準）

既存の基準は特になし。

4.2.10. ラベル表示

包装食品を市場に出す前の基準については、コーデックス規格を採用したMFDA「包装食品の表示に関する国家基準 MFDA-FCD STAN 4-2014 (Rev. 1-2016)」に包装食品表示基準がある。概要としては、次のように定められている。

以下抜粋；

1. 適用範囲

この規格は、消費者に提供されるまたはケータリング目的で提供されるすべての包装食品のラベル付け及びその表示に関する特定の側面に適用する。

3. 一般原則

3.1 包装商品は、虚偽、誤解を生じさせる表現、および故意に騙す意図のある表現、またはいかなる方法においてもその食品の性質に関して誤った印象を生じさせる可能性のある方法で、ラベルまたは表示において説明または表示してはならない。

3.2 包装済み食品は、直接的または間接的に当該食品が混同される可能性のある他の製品に言及または示唆するような、または購入者または消費者に当該食品が当該他の製品に関連していると思わせるような言葉、絵またはその他の工夫によって、ラベルまたは表示において記載または表示されてはならない。

4. 包装食品の表示義務

個別規格に明示的に規定されている場合を除き、包装食品のラベルにはラベル表示する食品に該当する次の情報を表示しなければならない：

4.1 食品の名称

4.1.1. 食品の名称 食品の名称は、その食品の真の性質を示さなければならず、通常、一般的なものではなく特定のものでなければならない：

4.1.1.1. 国家規格において食品の名称が設定されている場合、その名称の少なくとも一つを使用しなければならない。

4.1.1.2.その他の場合は、消費者を誤解させたり混乱させたりすることのない適切な記述的用語として一般的に使用されている、または通常の名称のいずれかを使用しなければならない。

4.1.1.3"造語の"名称、"架空の"名称、"ブランド名"および"商標"は、4.1.1.1から4.1.1.2に規定する名称の一つを伴う場合に限り、使用することができる。

4.1.2. ラベルには、食品の名称とともに、またはその近くに、包装媒体の種類、様式、および乾燥、濃縮、再構成、燻製などの処理状態または種類を含むがこれらに限定されない、食品の真の性質および物理的状态に関して消費者を誤解または混乱させないために必要な追加語句を表示しなければならない。

4.2 原材料リスト

4.2.1 単一成分食品を除き、ラベルに成分リストを表示するものとする。

4.2.1.1 成分リストは、「成分」という用語で構成されるか、またはそれを含む適切な表題を先頭に付けるものとする。

4.2.1.2 すべての原材料は、食品製造時の投入重量 (m/m) の降順で記載するものとする。

4.2.1.3 ある原材料が、それ自体二つ以上の原材料の混合物である場合、そのような混合原材料は、直ちに括弧書きで比率 (m/m) の降順で原材料のリストを添付することを条件として、原材料リストでそのように宣言することができる。複合成分 (国家規格で名称が設定されている) が食品の5%未満である場合、最終製品で技術的機能を果たす食品添加物以外の成分を表示する必要はない。

4.3 正味容量及び固形量

4.3.1 正味容量は、メートル法 ("Système International" 単位) で申告するものとする。

4.3.2 含有量は、次の方法で申告するものとする：

(i) 液体食品は容量で、

(ii) 固形食品は重量で；

(iii) 半固形または粘性の食品については、重量または容量。

4.4 名称および住所

食品の製造者、包装業者、流通業者、輸入業者、輸出業者、または販売業者の名称および住所を表示しなければならない。

4.5 原産国

4.5.1 食品の原産国は、その省略が消費者の誤解を招く、または欺くことになる場合、表示しなければならない。

4.5.2 食品が第二国で加工を受け、その性質が変化した場合、その加工が行われた国を表示上の原産国とみなすものとする。

4.6 ロット識別

各容器には、生産工場及びロットを識別するために、エンボス加工またはその他の方法で、コードまたは明瞭に恒久的に表示するものとする。

4.7 日付表示および保管指示

4.7.1 個別規格に別段の定めがない場合、次の日付表示を適用するものとする：

(i) "品質保持期限 (date of minimum durability) "を表示するものとする。

(ii) この日付は、少なくとも次のものから構成されなければならない：

- 最低耐久期間が3カ月を超えない製品については、日および月；
- 最低耐久期間が3カ月を超える製品については、月と年。12カ月以上の場合、年を表示すれば十分である。

4.8 使用説明書

食品の正しい利用を確保するため、必要に応じて、再構成を含む使用方法をラベルに記載するものとする。

5. その他の必須要件

5.1 成分定量申告

5.1.1 混合物または組合せとして販売される食品には、製造時の重量または体積による成分（複合成分または成分のカテゴリー6を含む）の含有率を開示するものとする：

- (a) ラベル上の文字、絵、図によってその存在を強調している場合。
- (b) 当該食品の名称には含まれておらず、当該食品を特徴付けるために不可欠であり、かつ当該食品が販売される国の消費者が当該食品に含まれると予想される場合。

5.2 放射線照射食品

5.2.1 電離放射線で処理された食品のラベルには、食品名の近くに、その処理を示す書面を記載するものとする。以下に示す国際食品照射記号の使用は任意であるが、使用する場合は食品名の近くに記載する。



図8 国際食品照射記号

5.3 有機、遺伝子組換え (GM) 食品

5.3.1 「有機」は、有機生産食品の生産、加工、表示およびマーケティングに関するコーデックスガイドライン (GL 32-1999) に従って生産および調理された農産物および食品を表すためにのみ使用できる。

5.3.2 食品が遺伝子組換え（GM）を含む場合、製品にはその存在を示す声明が含まれるものとする。

6. 義務的表示要件の適用除外

香辛料およびハーブを除き、最大の表面積が 10 平方センチ未満の小型ユニットは、4.2 項および 4.6 項から 4.8 項の要求事項の適用を免除することができる。

7. 任意表示

7.1 本規格の必須要件、および第 3 章「一般原則」に示されるクレームおよび欺瞞に関する要件に抵触しない限り、文字、印刷、図形による情報または絵表示をラベルに表示することができる。

7.2 等級表示を使用する場合は、容易に理解できるものでなければならず、誤解を招くものであってはならない。

8. 必須情報の表示

8.1 概要

8.1.1 包装食品のラベルは、容器から分離しないように貼付しなければならない。

8.1.2 この規格またはその他の国家規格によってラベルに表示することが求められている文言は、明確で、目立ち易く、消えず、通常の購入および使用条件下で消費者が容易に判読できるものでなければならない。

8.1.3 容器が包装紙で覆われている場合、包装紙には必要な情報が記載されていなければならない。また、容器のラベルは、外側の包装紙を通して容易に読み取れるか、または包装紙によって不明瞭にならないものでなければならない。

8.1.4 食品の名称と正味量は、目立つ位置に、同じ視界に入るように表示されなければならない。

8.2 言語

8.2.1 包装食品のラベル表示は、ディベヒ語または英語で行わなければならない。

8.2.2 ラベル原本の言語がディベヒ語または英語でない場合、必要な言語による必須情報を含む補足ラベルを使用しなければならない。

8.2.3 補足ラベルの場合、提供される必須情報は、原ラベルの情報を完全かつ正確に反映したものでなければならず、モルディブ食品医薬品局の承認を得なければならない。

4.2.11. その他

食品施設およびサービスに関する一般規定（2007/182/FS1）には以下の項目が記載されている。

1. 概要
2. 立地条件
3. 建物と施設
4. 設備と器具
5. 衛生要件
6. 従業員の衛生および健康要件
7. リコール手続き
8. 本規定の施行
9. 罰則
10. 用語の定義

4.3. 輸入許可、輸入ライセンス等、商品登録等（輸入者側で必要な手続き）

- ・ 輸入事業者登録

以下の機能を果たすためには、事業者は税関に登録されていなければならない。税関に登録された事業者には特別番号が付与される。

- 保税倉庫の運営
 - 通関業者のサービスを提供する
 - 海運代理店
 - 現地宅配業者のサービスを提供すること
 - モルディブへの商品の輸入
 - モルディブからの輸出
 - 免税店の経営
- ・ 保税倉庫の登録を希望する者は、以下の書類を提出しなければならない。
 - 保税倉庫登録フォーム [MCS-155 登録および取消申請書](#)
 - 会社登録証明書の原本とコピー
 - 過去に登録されている場合は、保税倉庫の登録証明書の原本とコピー
 - 建物の所有者/申請者間の契約書の原本とコピー
 - 個人・法人で登録が必要な場合、会社の取締役または個人の有効な国民身分証明書（IDカード）の原本とコピーおよび取締役会に外国人が含まれている場合、有効な労働許可証または労働許可証の原本とコピー

4.3.1. 輸入通関手続き（通関に必要な書類）

- ・ 必要な書類

関税法（2011/8）に従い、商品申告書とともに以下の書類を提出しなければならない。税関への商品申告書の提出には、免許を有する通関業者を利用することができる。税関ポータルから通関士の指定申請を行うことができる。

- 事前評価フォーム (http://asycuda.customs.gov.mv/download/fillable_prevaluation.pdf)
 - 商業送り状（Commercial Invoice）
 - 包装内容明細書（Packing List）
 - 船荷証券、航空運送状、または宅配便運送状（Bill of lading, Airway bill or Courier waybill）
 - 事前評価フォームに記載された買主と売主が負担する費用を記載した書類
 - 保険対象商品に対する保険証券
 - 郵便で輸入された商品の保証金受領書または郵便運送状
 - 宅配便で輸入された商品の宅配便航空運送状または配達注文書
 - 商品を通関港に持ち込むために発生したすべての費用を記載した書類
 - 商品代金の支払い内容または支払い方法を記載した書類
 - プロフォーマインボイスまたは発注書
 - 買い手と売り手の間で書面にて締結された合意
 - 予備品、コンポーネント、機械の価格が総額で示されている場合の、価格の項目別リスト
 - 輸入品が自動二輪車および自動二輪車以外の事前登録車両の場合、抹消登録証明書の原本
 - 輸入品が船舶の場合、[「船舶用追加情報シート」](#)
 - 特恵税率を申請する場合、原産地証明書の原本
 - 輸入にかかる許可が必要な商品に対する関連政府当局からの許可
 - 輸入者が税関と共有したい輸入商品に関するその他の情報
- ・ 書類が必要のない品目
 - 大統領により宣言された関税免除品
 - 身の回り品 長期間の海外滞在を終えてモルディブに入国する際に現地の乗客が持ち込む物品
 - 6カ月以上の海外滞在を終えてモルディブに戻ってきた国民が持ち込んだ中古品
 - モルディブに6カ月以上出張する専門家等が持ち込んだ中古品。

4.3.2. 輸入時の検査検疫

食品輸入衛生許可標準業務手順書(FCD/BC-BI/SOP-QP001 - 5th Amendment)には、以下の内容が定められている

1) 書類の提出

輸入食品の衛生検査のための書類は、貨物が到着した各港湾単位によって提出される必要がある。

書類提出の時間

- 港－衛生検査の 12 時間前（国境警備課）
- 空港－衛生検査の 3 時間前

2) 衛生検査に必要な書類

- ・魚および水産物
- 輸出国/製造国の管轄当局が発行した衛生証明書または獣医健康証明書-衛生証明書に原産地が記載されていない場合は原産地証明書
- パッキングリストまたはインボイス
- 船荷証券／航空貨物運送状

- ・肉および肉製品
- 輸出国/製造国の管轄当局が発行した衛生証明書または獣医健康証明書
- 衛生証明書に原産地が記載されていない場合は、原産地証明書
- パッキングリストまたはインボイス
- 船荷証券／航空貨物運送状

- ・卵および卵製品
- 輸出国/製造国の管轄当局が発行した衛生証明書または獣医健康診断書
- 衛生証明書に原産地が記載されていない場合は原産地証明書
- パッキングリストまたはインボイス
- 船荷証券／航空貨物運送状
- 卵の消費期限を 3 カ月以上にする処置の書類

- ・牛乳および乳製品
- パッキングリストまたはインボイス
- 着陸許可証／航空路使用許可証

- ・生の野菜と果物
- パッキングリストまたはインボイス
- 船荷証券／航空貨物運送状

- ・ 包装食品
 - パッキングリストまたはインボイス
 - 船荷証券／航空貨物運送状

 - ・ 指定商品
 - パッキングリストまたはインボイス
 - 船荷証券／航空貨物運送状
 - 会社登記簿謄本および製品登録証明書のコピー

 - ・ 栄養補助食品物
 - パッキングリストまたはインボイス
 - 船荷証券／航空貨物運送状
 - 「栄養補助食品通関基準」の要件に従った補助書類
 - ・ 個人使用目的の輸入食品
 - パッキングリストまたはインボイス
 - 個人使用基準 MFDA-FCDSTAN -6 2021 が要求する書類
3. 衛生証明書と原産地証明書は以下の方法により受領される
- 衛生証明書の原本を提出する
 - オンラインポータルで公式に有効化された衛生証明書のコピー
 - 当機関に当該機関から直接 E メールで提出された証明のコピー
 - 衛生証明書は「総合公式認証フォーマットと証明の作成と発行に関するガイドライン (CAC/GL38-2001)」に従わなければならない。
4. 書類の認証
- ・ 衛生証明書はインボイス/パッキングリストに従い検証される
 - ・ 衛生証明書全ての要求項目が満たされているか確認した上で検証される
- 5 輸入食品貨物の検査
- ・ すべての輸入食品は衛生検査が発行される前に検査される。すべての食品の 20%がランダムに検査される。
 - ・ 検査員（検査は次の者の立会いのもとで行われる）
 - 食品検査員 2名
 - モルディブ税関指定職員
 - 港湾局指定職員
 - 荷受人または荷受人が指定する者
 - ・ 食品検査チェックリスト（検査項目）

- 食品は「包装食品の表示に関する国家基準」に従って表示されなければならない。
- チルド品および冷凍品については、検査時に温度を記録しなければならない。
- 汚染、食品の腐敗、食品が汚染されている場合、害虫の侵入
- パッケージのこぼれ、へこみ、破損
- チルド/冷凍食品の再結晶および解凍

6. 食品の留置

- ・ 以下の理由により食品輸入が保留されることがある
- 必要な衛生検査書類の不備
- ラベルが「国家食品ラベル基準」に従っていない
- 検査で不合格となったもの（コールドチェーンの不備、腐敗、損傷、汚染食品）
- 食品警告が出された場合
- ・ MFDAが留置する物品については、「留置依頼書」を発行し、その写しをモルディブ税関、港湾局、荷受人に渡さなければならない。

7. 留置の解除

- ・ 食品は、次の理由で留置を解除することができる。
- すべての必須表示項目が存在するが、言語が異なる場合
- 指定商品および食品サプリメントの登録が完了した場合
- 衛生証明書の問題がある貨物は、修正または改訂した衛生証明書を港湾局に提出後、留置を解除させることができる
- ・ 解除手続き
- 留置された食品出荷の荷受人は、書面にて異議申し立てを行う。
- ラベルの言語に問題がある場合、ラベル全体の翻訳を製造業者、供給業者、または法律事務所から正式なスタンプを押された翻訳を通してMFDAに提出した後、留置が解除される。
- MFDAに登録される品目（指定品目および食品サプリメント）は、登録完了後に留置解除となる
- MFDAに留置された後に留置解除される品物については、「留置解除申請」伝票が発行される。そのコピーをモルディブ税関、港湾局と荷受人に渡さなければならない。

8. 物品の廃棄

- ・ 食品は、次の理由により検査時に廃棄されることがある。
- 消費期限切れ
- 腐敗、破損、汚染した商品
- チルドおよび冷凍貨物におけるコールドチェーンの破損
- 食品警告に関する品目はすべて廃棄することができる。
- 再輸出されない留置品は廃棄を要請することができる。

- ・ MFDA が廃棄する品目については、「廃棄依頼書」を発行し、その写しをモルディブ税関、港湾局、荷受人に渡さなければならない。
- ・ 食品の廃棄は、荷受人により手配され、食品検査官およびモルディブ税関の指定職員の立会いのもと、廃棄されるものとする。

4.3.3. 販売許可手続き

モルディブで事業を開始しようとする外国人は、経済開発省に外国投資認可を申請し、その後モルディブで会社を登録するか、海外会社の支店を再登録しなければならない。資本要件は投資の性質に基づき、MED の「海外直接投資政策」に明確に規定されている。すべての外国人投資家は、モルディブ内国歳入庁に 5,000 ドルの事務手数料を支払う必要がある。上記の承認プロセスには、申請日から最短で 5～14 営業日、最長で 30 営業日かかる。

以前は、貿易許可証を保有する必要があったが、2020 年の事業登録法の改正に基づき、2020 年 1 月 5 日より事業者は貿易許可証を保有する必要がなくなり、許可証に課される手数料も取り消された。

4.3.4. その他

その他の法律は、モルディブ経済開発省 (Ministry of Economic Development and Trade) のウェブサイト (<https://trade.gov.mv/en/laws-and-regulations/>) の法律と規制のページで確認することができる。

4.4. 関税

輸出入法 (Export Import act of Maldives) 31/79 第 18 改正版の第 5 条、第 6 条、第 7 条に以下のとおり定められている。

第 5 条

以下の品目には輸入税を課さない。

- (a) コメ、砂糖、小麦粉
- (b) コーランおよびその一部
- (c) 旅行者が持ち込んだ物品で大統領が免税した金額。
- (d) 私人が軽微な用途のために持ち込む物品から大統領が免税する金額を免除する。
- (e) 再輸出のためにモルディブに輸入される物品。

第 6 条

本法第 5 条に規定される品目を除き、モルディブに輸入される品目については、本法第 7 条に含まれる 97 項目に規定される輸入関税をモルディブ政府に納付しなければならない。アドベロールム関税を納付しなければならない物品については、関税の納付の

ため、その物品の価格は、被保険物品の場合は C.I.F.価額とみなし、無保険物品の場合
は C.I.F.価額とみなす。

第7条

本法第 6 条に規定されるとおり、輸入関税を支払わなければならない貨物および貨物
の種類は 97 項目に分けられ、各章に含まれる貨物の支払うべき関税額は以下の表に規
定されている。大統領は、この表に含まれる貨物の種類名および輸入関税額をさらに詳
細に規定する裁量権を有する。

以下食品に関するものを抜粋。

| 番号 | 品目 | 関税 |
|----|--|------------|
| 1 | 生きた動物 | |
| | (a) 以下のもの以外 (b) 法令に基づき許可を得て持ち込まれた動物。 | 25% 35% |
| 2 | 食肉及び食用くず肉 | |
| | (a) 以下のもの以外 (b) 豚肉及び食用の豚の部位 | 15% 35% |
| 3 | カニ、ムール貝、ロブスター、エビ、魚類、水生無脊椎動物 | |
| | (a) 以下のもの以外 (b) 本章に含まれる種類のうち、生きたもの。 | 15% 35% |
| 4 | 牛乳、乳製品、鳥の卵、天然蜂蜜、動物由来の食用製品で、他に指定 または含まれないもの - 本章に含まれるすべての品目 | 10% |
| 5 | 他に指定または含まれない動物由来の製品 - 本章に含まれるすべての品目 | 25% |
| 6 | 生きた樹木、その他の植物、球根、根など、切り花、観葉植物 - 本章に含まれるすべての品目 | 25% |
| 7 | 食用野菜製品および特定の種類の根菜類 - 本章に含まれる全ての品目 | 15% |
| 8 | 食用の果実および木の実、かんきつ類の果皮またはメロン | |
| | (a) 本章に含まれるもののうち、次に掲げるものを除く。 (b) アレカの実 | 15% 25% |
| 9 | コーヒー、紅茶、マテ茶、スパイス - この章に含まれるすべての品目 | 15% |
| 10 | 穀類 | |
| | (a) 本章に含まれる種類のうち、以下の品目を除く、本章に含まれる その他のすべての品目。 (b) 米 | 15% 0% |
| 11 | 製粉工業製品；麦芽；澱粉；イヌリン；小麦グルテン | |
| | (a) 本章に含まれる種類のうち、以下の品目を除く、本章に含まれる その他のすべての品目。 (b) 小麦粉 | 15% 0% |

| | | |
|----|---|--------------------------|
| 12 | 油糧種子および油糧果実；各種穀物、種子および果実；工業用または薬用植物；わらおよび飼料 (a)本章に含まれる品目のうち、次に掲げる品目以外のすべての品目。 (b)本章に含まれる品目のうち、医薬に使用されるもの。 | 15% 5% |
| 13 | ラック、ガム、ミルク、その他の植物性樹液および抽出物 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)ゼラチン | 25% 15% |
| 14 | 野菜の栽培資材；他の項目に規定されない、または含まれない野菜製品 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げる品目以外のすべての品目。 (b)綿 | 25% 15% |
| 15 | 動物から抽出した油脂およびその分離産物、調製食用油脂、動物性または植物性ワックス -この章に含まれるすべての項目 | 10% |
| 16 | 肉類、魚類または甲殻類、軟体動物その他の水棲無脊椎動物の調製品 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)豚肉を原材料とするもの | 15% 35% |
| 17 | 砂糖および砂糖菓子 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)砂糖 | 15% 0% |
| 18 | ココアおよびココア調製品 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)アルコールを含む製品 | 15% 35% |
| 19 | 穀類、小麦粉、澱粉または乳の調製品；菓子調理用製品 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)アルコールを含む製品 | 15% 35% |
| 20 | 野菜、果実、木の実または植物のその他の部分の調製品 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)香辛料を加え、または風味を付けたアレカナッツ (c)アルコールを含む製品 | 15% 25% 35% |
| 21 | その他の食用調製品 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)アレカの実を噛むために作られた製品 (c)豚肉を含むもの (d)アルコールを含むもの | 15% 25% 35% 35% |
| 22 | 飲料、蒸留酒、食酢 (a)本章に含まれる種類のうち、次に掲げるものを除く。 (b)アルコール飲料およびアルコール含有製品 (c)アルコール | 15% 35% 35% |
| 23 | 食品産業からの残渣および廃棄物；調製動物飼料 -本章に含まれるすべての品目 | 25% |
| 24 | タバコおよび製造されたタバコ代替品 (a)以下の品目以外 | 50% |

| | | |
|----|---|--------------------------|
| | (b) たばこ | 30Rf/ 30 本 |
| 25 | 塩、硫黄、土石、左官材料、石灰およびセメント (a)以下の品目以外 (b)建築物の建設に使用されるセメント、石、砂利 (c)食用の塩 (d)大理石 | 25% 10% 10% 15% |

以下にモルディブ輸出入法 (Export Import act of Maldives) 31/79 第 18 改正版のその他の項目を抜粋する。

8.

(a)大統領は、モルディブの経済に有益な活動を開始、実施、運営するために輸入される品目について、最長 10 年間、政府に対する関税の支払いを免除する裁量権を有する。

(b)大統領は、特別な事情がある場合、モルディブの公衆の一般的利益または島民の一般的利益のために輸入される品目について、輸入関税の支払いまたはその一部を免除する裁量権を有する。

(c)モルディブ政府から外交特権を付与された者がモルディブに持ち込み、またはモルディブから持ち出す物品については、モルディブが承認する国際条約に従い、関税を免除する。

11.

(a)モルディブ政府は、価格不明の輸入品及び通常輸入される価格を下回る価格の品目について、当該期間中にモルディブに通常輸入される当該品目の価格に基づいて、関税を支払わなければならない価格を決定する。

(b)モルディブ政府は、価格が明らかでない輸出品および通常輸出される価格を下回る価格の品目について、当該期間中にモルディブから通常輸出される当該品目の価格に基づき、関税を納付しなければならない価格を決定する。

©物品の所有者が、本条(a)項及び(b)項に従ってモルディブ政府が決定した価格に問題がある場合、所有者はその価格に対する関税を支払った後、裁判所に裁定を申請する権利を有する。所有者が提出した価格が有効であることが裁判所に証明された場合、モルディブ政府は、関税として支払った追加金を物品の所有者に払い戻すものとする。

12. 本法第 11 条に従い、モルディブ政府が関税を支払うべき価格を決定しなければならない状況において、貨物を輸出入する側が故意に不正を行ったことが証明されない場合、本法に対する違反とはみなされない。

13.

(a)モルディブへの輸入が許可されていない品目を秘密裏にモルディブに輸入すること、モルディブからの輸出が許可されていない品目を秘密裏にモルディブから輸出すること、関税

の支払いを免れるために、関税が課される品目を秘密裏にモルディブに輸入し、モルディブから輸出すること、およびこれらの行為を行おうとすることは、犯罪とする。

(b) 商品がモルディブに搬入された後、税関が指定しない区域に荷揚げされた場合、または、税関への通知もしくは税関の許可を得ずに、輸入商品について税関が指定する区域外に持ち出された場合、または、適用される関税を支払わずに商品がモルディブに輸入された場合は、秘密裏に商品を輸入したものとみなされる。

14.

(a) 物品が、税関への通知もしくは税関からの許可なく、輸出される物品のために税関が指定した地域から輸出され、もしくはその地域外に持ち出された場合、または、物品が、適用される関税を支払わずにモルディブから輸出され、もしくはモルディブから持ち出された場合。

本法第13条(a)項に対する違反が行われた場合、または未遂であった場合、本法に定める罰則の賦課に加え、当該物品は補償金なしで没収される。貨物を秘密裏に輸出入することによって財貨または金銭を取得した場合、本法に定める刑罰の賦課に加えて、当該財貨または金銭は没収される。

(b) モルディブに秘密裏に物品を輸入し、またはモルディブから秘密裏に物品を輸出した者に対する刑罰は、6ヶ月以上2年以下の懲役、追放、または自宅謹慎とする。

(c) モルディブに秘密裏に物品を輸入しようとした者、またはモルディブから秘密裏に物品を輸出しようとした者に対する罰則は、4カ月以上1年半以下の懲役もしくは禁錮または拘留、または10,000ルフィア以上2年以下の罰金とする。

(d) 本法第13条(a)項に反する違反が繰り返された場合、その度に、本法に基づき規定される罰則に、1年の禁固、追放、または自宅謹慎が追加される。

(e) 詐欺行為により、貨物の輸入の際に低額な価格が提示された場合、モルディブ政府は、初回に限り、当該貨物の実際の価格の2倍を超えない額の罰金を科す裁量権を有し、2回以上行われた場合には、当該貨物の実際の価格の2倍を超えない額の罰金に加え、2年を超えない期間、当該者による輸入を停止する裁量権を有する。

(f) 貨物を輸出する際に、不正行為によって低い価格が提示された場合、モルディブ政府は、初回に限り、当該貨物の実際の価格の2倍を超えない額の罰金を科す裁量権を有し、違反が複数回行われた場合は、当該貨物の実際の価格の2倍を超えない額の罰金に加え、当該当事者による輸出を2年以内の期間停止する裁量権を有する。

(g) この法律の罰則を定めていない条項に違反した場合、加害者は、当該商品の実際の価格の2倍を超えない額の罰金を科される。そのような行為の企てが発見された場合、加害者は、その行為の実行のために使用され、または使用されようとした物品の実際の価格を超えない額の罰金に処せられる。

(h) 本条第(e)項、第(f)項、および第(g)項に基づき科された罰金に問題がある場合、その者は罰金の納付後、裁判所に裁定を申請する権利を有する。裁判所が、その者が法律に違反していないと判断した場合、政府は、その者が支払った罰金を返還する。

4.5. その他の税

モルディブにおける商品・サービスの提供には、商品・サービスの価格に対して 8%の税率（2023 年 1 月 1 日から適用）の税金（GST）が課される。観光商品・サービスの供給には、商品・サービスの価格に対して 16%の税率（2023 年 1 月 1 日より適用）が課される。

登録者によって供給された商品・サービスの受領者は、商品・サービスの購入時に支払った GST に関して、前段階税額控除を受けることができる。前段階税（input tax）は出力税（output tax）と調整することができ、その純額は GST としてモルディブ内国歳入庁（MIRA）に納付される。

5. 参考資料：付録

5.1. 水産物の主要輸入業者／ディストリビューターの一覧表

| 会社名 | ウェブサイト |
|---|---|
| Royal Blue Fishing Pvt. Ltd | https://royalbluefishing.com |
| Sanaf Maldives Pvt Ltd | https://www.facebook.com/SANAF.MALDIVES/ |
| United Food Supplies Pvt Ltd | https://ufs.com.mv |
| Seafood enterprise Pvt Ltd | http://www.seafoodenterprise.org/index.html |
| Uni Royal Maldives Pvt Ltd | https://www.facebook.com/uniroyalmaldives/ |
| Starpatrons Trading Maldives | https://mv.linkedin.com/company/starpatrons-trading-maldives |
| Amagi Seafood | https://www.facebook.com/amagimaldives/ |
| Marine farm Maldives | http://marinefarmintl.com |
| Wild Harbour Pvt Ltd | https://wildharbour.ae/ |
| Cosmopolitan (wrist resort supply) | https://www.cosmopolitan.com.mv/en/who-we-are/world-of-cosmopolitan/ |
| Safco International Gen. Trading Co. L.L.C. | https://www.safcointl.com |

| | |
|--------------------------------------|---|
| Standard & Origin Pvt Ltd | https://www.facebook.com/p/Standard-Origin-pvt-ltd-100045363676324/?locale=zh_HK |
| HAPPY MARKET TRADING COMPANY PVT LTD | https://www.happymarket.com.mv |
| MADIHAA COMPANY PVT LTD | http://www.madihaa.mv |
| FANTASY PVT LTD | http://www.fantasy.com.mv |
| BESTBUY MALDIVES PVT LTD | https://www.bb-mld.com |
| SEAGULL GROUP PVT LTD | https://www.seagullmaldives.com |
| CYPREA F.N.B PVT LTD | https://www.cyprea.com.mv |
| SIBCO PVT LTD | https://www.sibco.com.mv |
| SEA AND SAND TRADING PVT LTD | https://seaandsandtrading.com |

5.2. 水産物の主要小売店一覧表

| 会社名 | 住所 |
|-----------------------------|--|
| Amagi Seafood | G. La Mezon, Male, Maldives |
| Ana Grocer | Alikilegefaanu Magu, Malé 20121 |
| Family Grocer by SIBCO | 5GF8+JFM H. Dhunburimaage, Janavaree Magu, Malé, |
| Fantasy Pvt Ltd | 1 Fareedhee Magu, Malé |
| MIFCO Mas Fihaara | 5GG6+C6P, Rah Dhebai Magu Rd, Malé, Hilaalee Magu, Malé 20389 |
| Sea and Sand trading (shop) | K, H Aahil Building, Ground floor, Lansimoo Goalhi, Malé |
| STO Peoples choice | 6 Orchid Magu, Malé |
| Fillet Shop 1 - Male' | Nikagas Magu, Malé 20197 |
| Fish Hut | H.Nookuri, Dhoohimeri Magu Dhoohimeri Magu, Malé 20091 |

| | |
|------------------------|--------------------------------------|
| SR Fish traders | Dhoohimeri Magu Male City, 20091 |
| Dhoom fish and Grocery | 5GF7+CXC, Malé 20039 |
| masain | Karoage, Dheefram Goalhi, Malé 20027 |
| Kandumas fihaara | Dhilkushaa Goalhi, Malé 20193 |
| Seafood Plus | 5GG5+RV6, Malé, |
| Thunnus - Mas Fihaara, | Male |

5.3. ALPS 処理水放出にかかる動向

5.3.1. ALPS 処理水の放出にかかる規制変更の有無／検査強化の動き

モルディブの輸入規制及び食品安全規制上においては、ALPS 処理水の放水によって、変更及び検査が強化された点はない。

5.3.2. 報道ぶり

現地インターネットニュースにもいくつか報道されている。主に取り上げられている点は、この処理水の関係で日本からの水産物の輸入を中国が規制している点である。この点において、ニュースでは特に中国側に偏るということはなく、中立な立場で語られている。

5.3.3. 現地輸入者の受け止め方

現地輸入事業者へのヒアリングの際には、ALPS 処理水放出にかかる問題としては、科学的な問題というよりは「政治的な問題」として受け止められているということであった。そのため、ALPS 処理水によって輸入量の減少などに影響があるということはないとのことだった。

5.3.4. 現地消費者の受け止め方

一般消費者のほとんどが、ALPS 処理水について知らないか、または知っていても気にしないとのことであった。一方、調査中一度だけ、住民向けのマーケットで輸入水産物を販売している店舗の販売員との雑談の中で、「現在、日本の水産物は危険である」と言われたことがあった。

5.4. 関連機関 URL

- ・ モルディブ政府関係

<https://www.state.gov/reports/2023-investment-climate-statements/maldives/>

<https://www.customs.gov.mv/Statistics>

<https://kidb.adb.org/economies/maldives>

<https://www.customs.gov.mv/Business/Importers/import-procedures>

<https://www.customs.gov.mv/Statistics>

<https://statisticsmaldives.gov.mv>

<http://www.mma.gov.mv/mobile/viya/series/2052>

- ・ 国際機関関連

<https://comtradeplus.un.org>

<https://www.worldbank.org/en/news/press-release/2023/10/02/maldives-economy-to-grow-by-6-5-in-2023-but-fiscal-buffers-urgently-needed>

<https://unctad.org/statistics>

<https://www.fao.org/faolex/country-profiles/general-profile/en/?iso3=MDV>

<https://www.imf.org/en/Publications/SPROLLS/world-economic-outlook-databases#sort=%40imfdate%20descending>

<https://www.adb.org/publications/key-indicators-asia-and-pacific-2023>

- ・ その他

<https://www.lloydsbanktrade.com/en/market-potential/maldives/economical-context>

<https://www.lloydsbanktrade.com/en/market-potential/maldives/customs>

https://www.globalnote.jp/post-2641.html?cat_no=107

https://ecodb.net/country/MV/imf_bca.html

5.5.

5.5. モルディブでホタテを扱っているとされる、リゾートホテル・レストランの例

- The St. Regis Maldives Vommuli Resort
 - <https://www.agfg.com.au/article/explore-the-maldives-vommuli-resort-and-an-indian-ocean-inspired-tuna-recipe>
- Six Senses Laamu
 - https://www.tripadvisor.com/ShowUserReviews-g2050017-d2045398-r351367061-Six_Senses_Laamu-Olhuveli_Island.html
- Hilton Maldives Amingiri Resort & Spa
 - <https://www.hilton.com/en/hotels/mleaihi-hilton-maldives-amingiri-resort-and-spa/dining/aura-pool-bar-cocktail-lab/>
- COCO BODU HITHI RESORT
 - https://www.purelymaldives.co.uk/sites/purelymaldives/files/u3/Tsuki%20Food%20Menu_0.pdf
 - https://cococollection.com/en/bodu_hithi
- ANANTARA
 - https://www.anantara.com/uploads/minor/anantara/documents/anantara-kihavah-maldives-villas/dining/akih_outlet_menus.pdf?la=ru
 - http://img.29palms.ru/photo/hotels/maldives/anantara-dhigu-resort/2/126_Mal'divy_Anantara_Dhigu_Resort_Spa_Maldives_Terrazzo_Origami_Dinner.pdf
 - <https://www.anantara.com/ja/veli-maldives/restaurants/origami>
- Gili Lankanfushi
 - <https://maldives-magazine.com/news/gili-lankanfushi-celebration-of-nimaigai.htm>
- KANDOLHU
 - <https://www.kandolhu.com/dining/menus9/Banzai-Menu.pdf>
 - <https://www.kandolhu.com/dining/banzai.html>
- NIYAMA
 - https://www.niyama.com/uploads/minor/anantara/documents/niyama/restaurant/nest/nest_food_menu_niyama_private_islands_maldives_july_v2_2023.pdf
 - <https://www.niyama.com/en>
- Amilla Fushi Resort
 - <https://amillafushi.resortmaldives.net/storage/media/678/Feeling-Koi---English.pdf>

- Vakkaru Maldives
 - <https://pwwdrblue.exblog.jp/30303277/>
 - <https://www.vakkarumaldives.com/dining/anguru-teppanyaki>
- JOALI
 - <https://www.joali.com/media/zxpb3bne/saoke-menu.pdf>
- WESTIN
 - <https://img1.wsimg.com/blobby/go/62220a99-3327-4f3e-af3d-b74cde67c2f2/downloads/The%20Westin%20Maldives%20Baa%20Atoll%20Summer%20Festival%20.pdf?ver=1563585934259>
- Maldives Dessertcart * Cosmetics
 - <https://maldives.desertcart.com/products/22495151-360deodorant-hotate-spray-natural-scallop-shell-120ml-5-1oz-unscented-pack-of-10-for-shoes-clothes-curtain-sofa-bed-toilet-wash-basin-inside-of-a-car-pet-goods>
- Siyam World Maldives
 - <https://www.teestyle.jp/country/maldives/report/reportMV220719.html>
- Kurumba Maldives
 - <https://www.pikufire.com/maldives-b/>
- Intercontinental Maldives
 - <https://www.bluxseatravel.com/maldives202003-09/>
- Fourseasons
 - https://www.fourseasons.com/maldiveslg/dining/restaurants/fuego_grill/fuego_grill_dinner/
- OZEN LIFE
 - <https://tikitiki21.exblog.jp/29455880/>
- One&Only
 - https://www.mashingup.jp/2014/07/039227maldives_2.html
 - <https://www.oneandonlyresorts.com/reethi-rah/dining/tapasake>
- Dusit Thani
 - <https://www.dusit.com/dusitthani-maldives/ja/>
 - <https://ritoful.com/archives/4968>
- Hideaway
 - https://wp-hideaway.eleanorapp.com/download/Teppanyaki_Menu.pdf?t=1685521880

- W Maldives
 - <https://maldives.net.mv/9892/w-maldives-recipe-scallops-foie-gras/>

- Hurawahlhi
 - <https://www.hurawalhi.com/dining/undersea-restaurant/>
 - <https://savourblackbookasia.com/5-8-undersea-restaurant-maldives/cof-3/>

- Velaa Private Island
 - <https://www.velaaprivateisland.com>
 - <https://www.aragurestaurant.com/#menu>

- Mirihi Island resort
 - <https://mirihi.com>
 - <https://mirihi.com/wp-content/uploads/2021/09/Muraka-Menu.pdf>

- Kuramathi Maldives
 - <https://www.kuramathi.com/dining/kobe.html>
 - <https://www.purelymaldives.co.uk/resources/Kobe-Menu.pdf>

- The Ritz-Carlton Maldives, Fari Islands
 - https://www.ritzcarlton.com/content/dam/marriott-digital/rz/apec/hws/m/mlera/en_us/document/assets/rz-mlera-6-23-bar-dinner--13595.pdf

- Waldorf Astoria Maldives Ithaafushi
 - <https://www.hilton.com/en/hotels/mleonwa-waldorf-astoria-maldives-ithaafushi/dining/tasting-table/>

- Baglioni Hotels & Resorts
 - https://maldives.baglionihotels.com/Pool_Bar_Lunch_Menu_cf29507c32.pdf

- Baros Maldives
 - <https://www.baros.com/wp-content/uploads/2023/11/A-La-Carte-Lighthouse-2023.pdf>




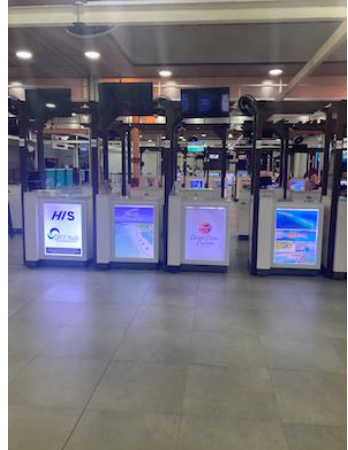





- Kagi Maldives
 - <https://kagimaldives.com/wp-content/uploads/2020/09/KEUN-LUNCH-MENU.pdf>
 - <https://kagimaldives.com/wp-content/uploads/2020/09/KEUN-LUNCH-MENU.pdf>








レストラン

- Nihonbashi Blue
 - https://crossroadsmaldives.com/wp-content/uploads/2023/09/NEW_NBB_25092023.pdf

- Sushizu
 - <https://mithaa.menu/restaurant/sushizu>

5.6. 写真

| | | |
|---|---|--|
|  |  |  |
| 空港のモニュメント | 飛行機からのマレ | 空港 |
|  |  |  |
| 空港のカウンター | マレ市内 | マレ市内の間屋街 |
|  |  |  |
| 食材店の外観 | 店舗の外観 | フルマレの住宅 |

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>市場</p> | <p>魚市場の外観</p> | <p>港</p> |
|  |  |  |
| <p>朝食</p> | <p>軽食</p> | <p>卸売店</p> |
|  | | |
| <p>フルマレの団地</p> | | |



マレ市内のバス



フルマレのバス



フルマレ・マレ間のフェリー



市内のモスク

国際観光地における水産物を含む日本産食材調達実態調査（モルディブ）

2024年3月作成

日本貿易振興機構（ジェトロ）農林水産食品部 市場開拓課
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
Tel. 03-3582-5186

禁無断転載